

横浜市中学生ネット依存調査

Survey on Internet Addiction among Junior High Students in Yokohama City

橋元良明 HASHIMOTO, Yoshiaki 大野志郎 OHNO, Shiroh
天野美穂子 AMANO, Mihoko 堀川裕介 HORIKAWA, Yusuke

目次

0. 調査の概要	橋元良明
0.1 調査の目的	
0.2 方法	
1. ネット依存の定義と依存傾向者の分布	堀川裕介
1.1 依存傾向者の定義	
1.2 依存傾向者の分布	
2. ソーシャルメディア利用とネット依存	大野志郎
2.1 ソーシャルメディアの利用者率	
2.2 ソーシャルメディアの利用時間	
2.3 代表的なソーシャルメディアの利用時間	
2.4 ソーシャルメディアによるコミュニケーション人数	
2.5 ソーシャルメディアの利用目的	
2.6 ソーシャルメディア利用の負担感	
2.7 本章のまとめ	
3. モバイル機器の利用と依存	堀川裕介
3.1 モバイル機器でのネット利用者割合	
3.2 モバイル機器でのネット利用時間	
3.3 モバイル機器の利用年数	
3.4 フィルタリングの利用	
4. 心理特性、対人関係とネット依存	天野美穂子
4.1 心理特性	
4.2 対人関係・生活満足度	
4.3 友人関係	
4.4 保護者との関係	
4.5 保護者との約束	

5. ネット依存に関わる要因の多変量解析

橋元良明

- 5.1 情報機器利用時間と依存
- 5.2 諸サービスの利用時間と依存
- 5.3 ソーシャルメディアの利用時間と依存
- 5.4 「よくやりとりする相手の人数」と依存
- 5.5 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存
- 5.6 「保護者との約束内容」と依存
- 5.7 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存
- 5.8 生活時間と依存
- 5.9 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存
- 5.10 保護者に対する気持ちと依存
- 5.11 心理特性と依存
- 5.12 範疇横断的な要因による依存の分析

6. ヤング 20 項目尺度とネット依存関連質問

堀川裕介

- 6.1 本調査におけるネット依存関連質問
- 6.2 ヤング 20 項目への回答状況
- 6.3 コミュニケーション関連項目への回答状況
- 6.4 ネット利用に伴う実害項目への回答状況
- 6.5 ネット依存関連その他の質問の回答状況

単純集計

橋元良明 東京大学大学院情報学環
大野志郎 立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科
天野美穂子 東京大学大学院学際情報学府博士課程
堀川裕介 東京大学大学院学際情報学府博士課程

なお、本報告のベースとなる調査は、総務省情報通信政策研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室の共同研究の一環として実施されたものである。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

近年、スマートフォンの普及とも相まって青少年のネット利用時間が増加している。サービス／アプリケーションとしては、動画やゲームの利用に加えて、LINE、Twitter 等のソーシャルメディアの利用頻度が増している。それに伴い、学生においては、学業や生活、家族関係、友人関係に悪影響が及ぶことが懸念されている。

ネットの利用がコントロールできず、様々な実害が生じる現象は一般に「ネット依存」と呼ばれているが、今回は(1)中学生のネット依存の実態を明らかにし、(2)機器利用時間や諸サービスの利用状況、ソーシャルメディアの利用目的、心理特性等、ネット依存に関わる要因を明らかにするため、東京大学大学院情報学環橋元研究室と総務省情報通信政策研究所が共同研究として、中学生のネット依存状況を調査した。その際、横浜市の協力を得て、横浜市内の中学生に調査に参加してもらった。

「ネット依存」の基準としては様々なものがあるが、今回は K.Young の提唱した 20 項目のインターネット依存尺度を参照した。

なお、本調査の単純集計値および学年、性別、ネット依存傾向(高・中・低)と各質問項目のクロス集計結果は、総務省情報通信政策研究所の下記のサイトにも掲載されている。

http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2016/20160630_02.pdf

0.2 方法

横浜市の協力を得て、市内の公立中学校を対象に紙媒体質問票による配布回収調査を実施した。

(1)調査対象校：横浜市内の公立中学校 148 校（生徒総数 81,279 人）のうち、横浜市教育委員会を通じて調整を行ない、調査への協力を得られた 22 校（同 11,589 人）で調査を実施した。

(2)調査対象者：各中学校における全学年、全クラスの生徒

(3)調査方法：(株)山手情報処理センターから対象の中学校に一括して調査票を郵送し、各中学校で生徒に調査票を配布、無記名で記入されたものを回収し、郵送にて山手情報処理センターに返送した。

(4)有効回答数：10,596 票（1 年生：3,550 票、2 年生：3,636 票、3 年生：3,410 票）

(5)調査期間：2015 年 2 月 18 日～3 月 13 日

1. ネット依存の定義と依存傾向者の分布

1.1 依存傾向者の定義

ネット依存には様々な定義や基準が提案されているが、本稿ではネット依存研究の先駆けであるキンバリー・ヤング氏が考案し、その後の研究にも多用されている 20 項目尺度¹⁾を用いた。本尺度は 20 項目それぞれを 5 段階で回答者に評価させ、その合計得点（最低 20、最高 100 点）が 40 点未満であれば「平均的なオンライン・ユーザー」、40 点以上 70 点未満であれば「インターネットによる問題がある」、70 点以上であれば「インターネットが生活に重大な問題をもたらしている」と判定するものであるが、本稿では 70 点以上を「依存傾向」、70 点未満を「非依存傾向」とする判定基準を採用した。以降では「依存傾向者」とはヤング 20 項目基準で 70 点以上に該当した者を指すものとする。

表 1.1.1 本調査で尋ねたヤング 20 項目尺度

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 気がつく、思っていたより長い時間ネットをしていることがある(2) ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある(3) 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある(4) ネットで新しく知り合いを作ることがある(5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある(6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている(7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある(8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア (LINE、Twitter など)やメールをチェックすることがある(9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある(10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある(11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある(12) ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある(13) ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある(14) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている(15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある(16) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある(17) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある(20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする |
|---|

※Young(1998)の原著と訳書を基に、現代日本の中学生にも理解しやすい文言になるよう考慮しつつ、筆者らが訳出した。実際の調査票では漢字やソーシャルメディアのサービス名にルビを振った。

¹⁾ Young, K S. (1998) "Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery" (邦訳：キンバリー・ヤング著 小田嶋由美子訳『インターネット中毒まじめな警告です』) による。

1.2 依存傾向者の分布

依存傾向者の判定のためには 20 項目への回答がすべてそろっている必要があるため、20 項目のいずれか 1 つでも欠損値のあるサンプルを除いた 9,475 人を分析対象とした。前述の定義に基づき依存傾向者の割合を求めたところ、5.7%が依存傾向者と判定された。

学年と性別による依存傾向者の割合を見たところ、学年では 1 年生 6.4%、2 年生 5.5%、3 年生 5.1%であり、 χ 二乗検定での有意な偏りは見られなかった。性別では男子 5.1%、女子 6.2%であり、 χ 二乗検定で危険率 5%水準での有意な偏りが見られた。

さらに学年ごとに分けて性別による依存傾向者の割合を見たところ（図 1.2.1）、上の学年ほど男女差が小さいことが明らかとなった。また男子と異なり、女子では上の学年ほど依存傾向者の割合が少ない傾向が見られた。

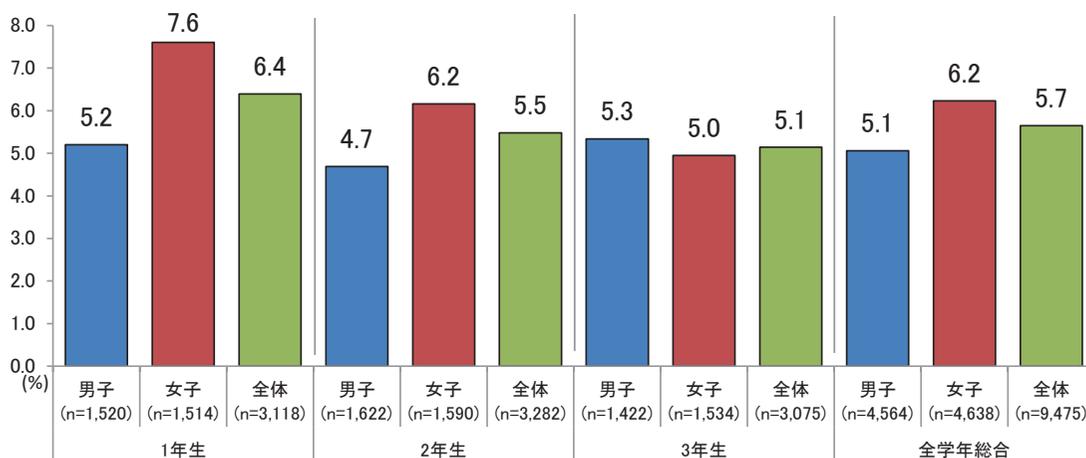


図 1.2.1 学年×性別でみた依存傾向者の割合

※各学年および全学年総合で男女の N 数の合計と全体の N 数が合致しないのは性別不明の回答者が存在するため。

2. 中学生のソーシャルメディア利用とインターネット依存

本章においては、ソーシャルメディアの利用者率および利用時間、ソーシャルメディアによるコミュニケーション人数、ソーシャルメディアの利用目的、ソーシャルメディア利用に伴う負担感について、性別、学年、インターネット依存傾向との関連性について明らかにするため、基本的な分析を行う²。

2.1 ソーシャルメディアの利用者率

ソーシャルメディアの利用状況について、利用している、利用していないの2択で回答を得た。性別、学年別、依存傾向別の利用者率を、表 2.1.1 に示す。ソーシャルメディアの利用率は 80.8%であり、男性の 79.4%に対し、女性は 81.3%と有意に高かった。学年別には1年生の 75.4%に対して3年生が 86.1%と有意に高かった。依存傾向者のソーシャルメディア利用率は 94.9%であり、非依存傾向者の 79.3%に対して非常に高い率であった。

表 2.1.1 ソーシャルメディアの利用者率

	ソーシャルメディアを利用する		
	該当率	検定	N
全体	80.8%		9796
男性	79.4%	*	4672
女性	81.3%		4761
1年生	75.4%	***	3181
2年生	81.0%		3395
3年生	86.1%		3220
依存	94.9%	***	527
非依存	79.3%		8296

※母数は有効回答数全体。 * $p < 0.05$, *** $p < 0.001$

ソーシャルメディア利用者と非利用者の依存傾向者率を、表 2.1.2 に示す。全体ではソーシャルメディア利用群の 7.1%が依存傾向を示したのに対し、ソーシャルメディア非利用群ではわずか 1.5%であった。ただし、ソーシャルメディアの非利用者率は 19.2%と少数派であり、インターネットそのものを積極的に利用しない層が多く含まれることに留意すべきである。性別では、女性のソーシャルメディア利用者に占める依存傾向者率が 7.8%、学年では1年生のソーシャルメディア利用者に占める依存傾向者の率が 8.8%であり、比

² 分析に際し、平均値の差の検定には、性別・依存非依存には t 検定を、学年には分散分析を用いた。また、名義尺度間の差の検定にはカイ二乗検定を用いた。なお、本章の全ての分析に際し、DK、NAを除いて集計している。

較的高い率であった。

表 2.1.2 ソーシャルメディア利用と依存傾向

	ソーシャルメディア利用	依存傾向者率	χ^2 検定	N
全体	あり	7.1%	***	7079
	なし	1.5%		1744
男性	あり	6.3%	***	3282
	なし	1.9%		894
女性	あり	7.8%	***	3559
	なし	1.1%		830
1年生	あり	8.8%	***	2102
	なし	1.7%		718
2年生	あり	6.6%	***	2473
	なし	1.8%		607
3年生	あり	6.0%	***	2504
	なし	1.0%		419

※母数は有効回答数全体。 *** $p < 0.001$

2.2 ソーシャルメディアの利用時間

パソコンやタブレット端末、スマートフォンやガラケーを用いた、平日1日の平均的なソーシャルメディアの利用時間を、表 2.2.1 に示す。

パソコンやタブレット端末によるソーシャルメディアの利用時間は、閲覧時間が平均14.4分、書き込み時間が9.3分、通話時間が4.4分であった。性別について有意な差が見られたのは通話時間のみで、男性が5.6分と長く、女性は2.8分と短かった。学年については閲覧、書き込み、通話のいずれも有意な差が見られ、高学年ほど長時間であった。依存傾向については、閲覧、書き込み、通話のいずれも大きな差が見られ、依存傾向者は非依存傾向者に対して、3.5倍から5倍程度の利用時間であった。

スマートフォンやガラケーによるソーシャルメディアの利用時間は、閲覧時間が平均55.5分、書き込み時間が32.5分、通話時間が12.5分であり、パソコンやタブレット端末による利用時間と比較して、3倍から4倍程度長時間であった。端末による利用時間の差については、パソコンはスマートフォンに対して平均ネット利用時間が短いこと³、ソーシャルメディアの利用形態としてモバイル端末の利用が一般的であることが大きく影響している⁴。0分の回答を除く平日の利用者平均時間は、パソコンやタブレット端末によるスマートメディア閲覧が68.4分、書き込みが68.4分、通話が71.7分、スマートフォンやガラケーによるスマートメディア閲覧が95.7分、書き込みが69.1分、通話が46.3分であった。

³ 本調査による端末ごとのネット利用時間は、パソコンが40.2分、タブレット端末が38.1分、スマートフォンが125.7分、ガラケーが15.5分であった。

⁴ 例えば、ソーシャルメディアの閲覧時間について、平日の利用時間が1分以上と回答した人数は、パソコンやタブレット端末の1,678人に対し、スマートフォンやガラケーは5,028人であった。

スマートフォンやガラケーによる利用時間については、性別、学年、依存傾向のいずれにおいても有意な差が見られた。閲覧、書き込み、通話の全てにおいて、男性よりも女性の利用時間が有意に長く、学年では3年生の利用時間が有意に長かった。また、依存傾向者はソーシャルメディアの閲覧時間が約2時間、書き込みの時間が約1時間20分と、いずれも長時間に及んでいた。

表 2.2.1 ソーシャルメディアの利用時間

	パソコンやタブレット端末で								
	ソーシャルメディアを見る			ソーシャルメディアに書き込む			ソーシャルメディアで通話する		
	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N
全体	14.4		8055	9.3		7928	4.4		8695
男性	13.4	n.s.	3829	8.6	n.s.	3777	5.6	***	4246
女性	15.0		3978	9.4		3913	2.8		4183
1年生	11.2	***	2755	8.8	***	2719	2.9	***	2959
2年生	13.2		2827	7.0		2780	4.1		3071
3年生	19.3		2473	12.4		2429	6.5		2665
依存	40.4	***	418	33.7	***	414	17.2	***	437
非依存	12.5		6917	7.6		6816	3.2		7472
	スマートフォンやガラケーで								
	ソーシャルメディアを見る			ソーシャルメディアに書き込む			ソーシャルメディアで通話する		
	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N
全体	55.5		8671	32.5		8578	12.5		9290
男性	36.8	***	4029	22.7	***	3977	9.9	***	4428
女性	70.9		4357	40.4		4324	13.8		4562
1年生	46.1	***	2936	28.8	***	2914	10.4	***	3137
2年生	45.9		2983	27.9		2954	10.3		3227
3年生	75.9		2752	41.4		2710	17.0		2926
依存	121.1	***	434	80.6	***	432	36.9	***	461
非依存	50.8		7439	28.9		7365	10.3		7978

※母数は有効回答数全体。利用時間は0分の回答を含む。 *** $p < 0.001$

続いて、依存傾向者の性別、学年別のソーシャルメディア閲覧時間を、表 2.2.2 に示す。パソコンやタブレット端末による利用時間について、性別、学年別共に有意な差は見られなかった。スマートフォンやガラケーによる利用時間については、性別では女性が、学年では 3 年生が、それぞれ約 2 時間 25 分、約 2 時間 31 分と長く、有意な差が見られた。

表 2.2.2 依存傾向者のソーシャルメディアの利用時間

ソーシャルメディアを見る時間	パソコンやタブレット端末			スマートフォンやガラケー		
	依存傾向者の利用時間(分)	χ^2 検定	N	依存傾向者の利用時間(分)	χ^2 検定	N
男性	38.8	n.s.	173	88.6	***	173
女性	43.3		232	144.5		247
1 年生	37.0	n.s.	165	122.1	*	166
2 年生	37.2		141	95.2		147
3 年生	49.6		112	151.3		121

* $p < 0.05$, *** $p < 0.001$

※母数はインターネット依存傾向者。利用時間は 0 分の回答を含む。

2.3 代表的なソーシャルメディアの利用時間

代表的なソーシャルメディアとして、LINE、Twitter、Facebook、mixi を挙げ、それぞれの平日 1 日の平均的な利用時間について回答を得た結果を、表 2.3.1 に示す。LINE については 87.9 分であり、男性 (66.2 分) より女性 (108.6 分) が、学年については 3 年生 (102.4 分) が、長時間利用していた。また、依存傾向者は約 2 時間 22 分と非常に長時間であった。Twitter については 69.7 分であり、男性 (46.2 分) より女性 (86.5 分) が、学年については 3 年生が 88.7 分と長時間利用していた。また、依存傾向者は 2 時間と長時間であった。Facebook と mixi については、性別、学年による有意な差は見られなかった。依存傾向においては、依存傾向者は非依存傾向者の倍程度の利用時間となっていた。

LINE のソーシャルメディア利用時間が他のソーシャルメディアと比較して長時間であることについては、各ソーシャルメディアの利用者のうち、平日に平均 1 分以上使用する率が高い (平日に全く使用しない率が低い) ことがひとつの要因であろう。利用者のうちの平日利用率は、LINE が 99.4% であるのに対し、Twitter は 96.7%、Facebook は 78.5%、mixi は 60.2% であった。ただし、平日平均 1 分以上の利用者のみを対象として分析した利用者平均時間においても、LINE が 88.4 分、Twitter が 72.1 分、Facebook が 34.4 分、mixi が 63.7 分であり、LINE の利用時間が最長であった。

表 2.3.1 代表的なソーシャルメディアの利用時間

	LINE			Twitter			Facebook			mixi		
	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N	時間(分)	検定	N
全体	87.9		6606	69.7		3659	27.0		917	38.4		367
男性	66.2	***	3094	46.2	***	1514	22.3	†	459	40.2	n.s.	220
女性	108.6		3237	86.5		1992	29.9		413	28.7		127
1年生	84.9	***	2016	53.6	***	812	25.5	n.s.	289	45.5	n.s.	141
2年生	76.0		2281	56.8		1290	23.5		302	31.6		117
3年生	102.4		2309	88.7		1557	31.5		326	36.4		109
依存	142.1	***	423	120.1	***	322	47.7	**	97	52.3	*	47
非依存	83.8		5494	68.7		2942	21.4		693	30.2		266

† $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

※母数は各ソーシャルメディアの利用者。利用時間は0分の回答を含む。

2.4 ソーシャルメディアによるコミュニケーション人数

ソーシャルメディアでよくやりとりする人数について、表 2.4.1 に示す。家族については平均 2.1 人であり、性別では女性が 2.2 人、学年別では 1 年生が 2.3 人と有意に多かった。依存傾向については有意な差は見られなかった。同じ学校の友だちについては、平均 24.7 人であり、性別では男性が 25.7 人、学年別では 1 年生が 29.2 人、依存傾向別には依存傾向者が 28.6 人と、いずれも有意に多かった。学外の活動を通じて知り合った友だちについては、平均 9.6 人であり、性別では男性が 10.3 人、学年別では 1 年生が 10.6 人、依存傾向別には依存傾向者が 12.0 人と、いずれも有意に多かった。ソーシャルメディア上で知り合い、会ったことのある友だちについては、平均 2.0 人であり、性別、学年で有意な差は見られなかった。依存傾向別には依存傾向者が 4.8 人と、有意に多かった。ソーシャルメディア上のみの友だちについては、平均 18.6 人であり、性別、学年で有意な差は見られなかった。依存傾向については、依存傾向者は 60.3 人であり、非依存傾向者の 15.2 人と比較して非常に多く、依存傾向者がソーシャルメディア上のみの友だちを特に多く持つ傾向にあることが分かる。

表 2.4.1 ソーシャルメディアでよくやり取りする人数

	家族			同じ学校の友だち			学校外の活動(学習塾、クラブ活動、趣味の活動など)を通じて知り合った友だち			ソーシャルメディア上で始めて知り合い、実際に会ったこともある友だち			ソーシャルメディア上でだけでよくやり取りし、実際にはあったことのない友だち		
	人数(人)	検定	N	人数(人)	検定	N	人数(人)	検定	N	人数(人)	検定	N	人数(人)	検定	N
全体	2.1		7540	24.7		7365	9.6		7341	2.0		7353	8.6		7357
男性	2.0	***	3511	25.7	*	3436	10.3	**	3418	2.1	n.s.	3411	16.8	n.s.	3420
女性	2.2		3715	23.6		3645	8.6		3631	1.8		3645	20.3		3642
1年生	2.3		2276	29.2		2230	10.6		2234	2.1		2212	15.7		2215
2年生	2.1	***	2614	23.6	***	2577	9.3	*	2558	2.0	n.s.	2567	17.6	†	2566
3年生	2.0		2650	21.9		2558	9.0		2549	1.9		2574	22.3		2576
依存	2.0	n.s.	484	28.6	*	473	12.0	*	478	4.8	***	474	60.3	***	470
非依存	2.1		6261	24.1		6127	9.2		6109	1.8		6118	15.2		6134

† $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

※母数はソーシャルメディア利用者。人数は0人の回答を含む。

2.5 ソーシャルメディアの利用目的

ソーシャルメディア利用の理由・目的の該当率を表 2.5.1 に示す。全体としては、友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため (77.1%)、学校・部活動などの事務的な連絡のため (68.1%)、ひまつぶしのため (61.1%)、情報収集のため (50.6%) の該当率が高かった。性別では全ての項目において女性の該当率が有意に高かった。学年別では、新しく友だちを作るため、事務的な連絡のため、情報収集のため、写真・動画を気軽にシェアできるため、ひまつぶしのため、ストレス解消のため、の 6 項目で有意な差が見られ、概ね高学年ほど該当率が高かった。ただし、ストレス解消のためについては 1 年生の該当率が 18.3% (2 年生 16.3%、3 年生 14.5%) であり、低学年ほど高い傾向であった。依存傾向については、ほとんどの項目で有意な差が見られた。特に、新しく友だちを作るため (依存 31.7%、非依存 11.9%)、自分の近況や気持ちを知ってもらうため (依存 29.3%、非依存 10.3%)、ストレス解消のため (依存 52.7%、非依存 13.3%)、現実から逃れるため (依存 47.5%、非依存 7.7%) については、非常に大きな差が見られた。

依存傾向との関連を詳細に見るため、各項目の依存傾向者率を表 2.5.2 に示す。前述の 4 項目の該当者の中に占める依存傾向者率に注目すると、新しく友だちを作るために該当する利用者の 17.2%、自分の近況を知ってもらうために該当する利用者の 18.1%、ストレス解消に該当する利用者の 23.5%、現実から逃れるために該当する利用者の 32.4% であり、非該当者 (4~6%) と比較して非常に高いことが分かる。

表 2.5.1 ソーシャルメディア利用の理由・目的

	友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため		新しく友だちを作るため		学校・部活動などの事務的な連絡のため		周囲の人も使っているため		自分の近況や気持ちを知らせてもらうため		
	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	
全体	77.1%		13.4%		68.1%		35.7%		11.6%		
男性	72.8%	***	10.5%	***	63.9%	***	31.8%	***	8.6%	***	
女性	81.5%		16.1%		72.7%		40.0%		14.2%		
1年生	76.5%		14.6%		69.9%		35.2%		12.6%		
2年生	76.8%	n.s.	11.8%	**	69.1%	**	34.8%	n.s.	11.0%	n.s.	
3年生	77.8%		14.0%		65.7%		37.1%		11.4%		
依存	78.2%		31.7%	***	56.4%	***	48.5%	***	29.3%	***	
非依存	77.1%	n.s.	11.9%		69.8%		35.4%		10.3%		
	情報収集のため		写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため		ひまつぶしのため		ストレス解消のため		現実から逃れるため		
	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	N
全体	50.6%		30.6%		61.1%		16.3%		10.6%		7452
男性	47.4%	***	22.5%	***	58.5%	***	13.2%	***	7.0%	***	3452
女性	53.9%		38.3%		63.5%		19.2%		13.7%		3699
1年生	44.6%		26.9%		57.7%		18.3%		10.9%		2219
2年生	50.7%	***	31.3%	***	61.5%	***	16.3%	**	10.8%	n.s.	2591
3年生	55.6%		33.0%		63.4%		14.5%		10.1%		2642
依存	62.7%	***	51.9%	***	77.8%	***	52.7%	***	47.5%	***	482
非依存	49.9%		28.7%		59.8%		13.3%		7.7%		6192

※母数はソーシャルメディア利用者。 ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

表 2.5.2 ソーシャルメディア利用の理由・目的と依存傾向

ソーシャルメディア利用の理由・目的		依存	χ^2 検定	N
友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため	該当	7.3%	n.s.	5152
	非該当	6.9%		
新しく友だちを作るため	該当	17.1%	***	887
	非該当	5.7%		
学校・部活動などの事務的な連絡のため	該当	5.9%	***	4591
	非該当	10.1%		
周囲の人も使っているため	該当	9.6%	***	2426
	非該当	5.8%		
自分の近況や気持ちを知ってもらうため	該当	18.1%	***	777
	非該当	5.8%		
情報収集のため	該当	8.9%	***	3394
	非該当	5.8%		
写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため	該当	12.3%	***	2029
	非該当	5.0%		
ひまつぶしのため	該当	9.2%	***	4080
	非該当	4.1%		
ストレス解消のため	該当	23.5%	***	1079
	非該当	4.1%		
現実から逃れるため	該当	32.4%	***	706
	非該当	4.2%		

※母数はソーシャルメディア利用者。 *** $p < 0.001$

この4項目について、性別、学年別の依存傾向者率を表2.5.3に示す。新しく友だちを作るため、自分の近況や気持ちを知ってもらうための2項目については、性別および学年に有意な差は見られなかった。ストレス解消のためについては、男性の21.0%に対し、女性が25.0%と有意に高く、学年については1年生が29.8%と有意に高かった。現実から逃れるためについては、男女に有意な差は見られなかったものの、男性において35.3%とやや高い傾向が見られた。また、学年については1年生が40.8%と非常に高い依存傾向者率であった。

表 2.5.3 性別、学年毎のソーシャルメディア利用目的と依存傾向者率

各設問 該当者	新しく友だちを作るため			自分の近況や気持ちを知ってもらうため			ストレス解消のため			現実から逃れるため		
	依存傾向者率	χ^2 検定	N	依存傾向者率	χ^2 検定	N	依存傾向者率	χ^2 検定	N	依存傾向者率	χ^2 検定	N
男性	16.1%	n.s.	316	18.0%	n.s.	267	21.0%	***	400	35.3%	†	104
女性	18.0%			18.8%			25.0%			31.5%		
1年生	20.1%	n.s.	279	17.1%	n.s.	246	29.8%	***	349	40.8%	**	206
2年生	18.1%			18.7%			20.9%			31.5%		
3年生	14.2%			18.6%			20.2%			26.3%		

※母数はソーシャルメディア利用者。 † $p < 0.1$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

2.6 ソーシャルメディア利用の負担感

ソーシャルメディア利用の際に、悩んだり負担に感じたりすること（負担感）について、性別、学年別、依存傾向別の該当者率を表 2.6.1 に示す。全体として、ソーシャルメディア内の人間関係（19.0%）、メッセージを読んだことが分かる機能があること（19.4%）、友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと（24.4%）の該当率が高かった。性別では、女性においてはほとんどの項目で男性より有意に高く、ソーシャルメディア内の人間関係（22.9%）、悪口が書かれていないか気になる（19.1%）、メッセージを読んだことが分かる機能があること（23.4%）、友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと（30.6%）の該当率が特に高かった。学年別にはいずれの項目においても大きな差は見られなかったが、自分の書いたメッセージに反応がないことについて、1年生のみ 19.3%（2年生 14.7%、3年生 14.3%）と比較的高い該当率であった。依存傾向については全ての項目において、依存傾向者が有意に高い該当率であった。各項目該当者に占める依存傾向者率を、表 2.6.2 に示す。特に、頻繁にメッセージを投稿しなければいけないような気がする（該当者 17.8%、非該当者 7.0%）、悪意のあるコメントや荒らしがくること（該当者 17.8%、非該当者 6.4%）、自分の書いたメッセージに反応がないこと（該当者 15.9%、非該当者 5.9%）については、該当者と非該当者との間に 10 ポイント以上の依存傾向者率の差があり、各負担感と依存傾向との強い関連性が伺える。

表 2.6.1 ソーシャルメディアの負担感

	ソーシャルメディア内の人間関係		頻りにメッセージを投稿しなければいけないような気がする		友だちのメッセージをチェックすること		自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいのかも悩む	
	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定
全体	19.0%		4.6%		16.8%		12.3%	
男性	14.2%	***	4.5%	n.s.	14.5%	***	9.3%	***
女性	22.9%		4.5%		18.5%		14.8%	
1年生	19.3%		5.4%		18.8%		12.8%	
2年生	17.2%	*	4.1%	†	16.3%	*	11.5%	n.s.
3年生	20.5%		4.2%		15.7%		12.8%	
依存	38.5%	***	10.7%	***	30.4%	***	22.9%	***
非依存	17.5%		4.0%		15.8%		11.7%	
	他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む		悪意のあるコメントや荒らしがくること		見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる		メッセージを読んだことが分かる機能(既読確認など)があること	
	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定
全体	10.0%		9.1%		15.4%		19.4%	
男性	8.1%	***	8.4%	n.s.	11.2%	***	14.6%	***
女性	11.4%		9.4%		19.1%		23.4%	
1年生	9.8%		9.5%		17.7%		20.5%	
2年生	9.9%	n.s.	8.7%	n.s.	14.8%	**	18.3%	n.s.
3年生	10.3%		9.2%		13.9%		19.6%	
依存	21.2%	***	21.8%	***	27.6%	***	27.2%	***
非依存	9.0%		8.1%		14.3%		18.9%	
	メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと		友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと		自分の書いたメッセージに反応がないこと			
	該当率	検定	該当率	検定	該当率	検定		N
全体	15.3%		24.4%		16.0%			6942
男性	12.1%	***	17.3%	***	13.3%	***		3135
女性	18.2%		30.6%		18.3%			3559
1年生	17.7%		25.1%		19.3%			2096
2年生	14.0%	**	24.6%	n.s.	14.7%	***		2425
3年生	14.4%		23.5%		14.3%			2421
依存	25.9%	***	40.5%	***	34.0%	***		467
非依存	14.5%		23.3%		14.6%			5793

※母数はソーシャルメディア利用者。 † $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

表 2.6.2 ソーシャルメディアの負担感と依存傾向

ソーシャルメディア利用の負担感		依存	χ^2 検定	N
ソーシャルメディア内の人間関係	非該当	5.7%	***	5069 1191
	該当	15.1%		
頻繁にメッセージを投稿しなければいけないような気がする こと	非該当	7.0%	***	5979 281
	該当	17.8%		
友だちのメッセージをチェックすることもか悩む	非該当	6.2%	***	5205 1055
	該当	13.5%		
自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよい のか悩む	非該当	6.6%	***	5477 783
	該当	13.7%		
他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよい のか悩む	非該当	6.5%	***	5641 619
	該当	16.0%		
悪意のあるコメントや荒らしがくること	非該当	6.4%	***	5688 572
	該当	17.8%		
見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる	非該当	6.4%	***	5302 958
	該当	13.5%		
メッセージを読んだことが分かる機能（既読確認など）があ ること	非該当	6.7%	***	5041 1219
	該当	10.4%		
メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと	非該当	6.5%	***	5298 962
	該当	12.6%		
友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと	非該当	5.9%	***	4719 1541
	該当	12.3%		
自分の書いたメッセージに反応がないこと	非該当	5.9%	***	5258 1002
	該当	15.9%		

※母数はソーシャルメディア利用者。 *** $p < 0.001$

2.7 本章のまとめ

インターネット依存傾向とソーシャルメディア利用について、ソーシャルメディア利用者のうち、女性および中学1年生において依存傾向者率が高かった。依存傾向者の、スマートフォンやガラケーを用いたソーシャルメディアの閲覧時間は、男性と比較して女性が極めて長く、2時間25分に及んでいた。また学年別には中学3年生が最も長く、2時間半を超えていた。ソーシャルメディア利用の目的として、ストレス解消および現実逃避への該当者はインターネット依存傾向を示す率が高く、特に中学1年生において顕著であった（ストレス解消29.8%、現実逃避40.8%）。これらの結果から、ソーシャルメディア利用とインターネット依存傾向が結びつくリスクは、男性よりも女性において高く、学年別には1年生において高いものと思われる。また、中学3年生の依存傾向者はソーシャルメディアの利用時間が長くなる傾向にあるため、時間管理の失敗による実害の発生に特に注意する必要がある。

本章で概観した各変数がインターネット依存の要因となる程度について、5.2 から 5.5 節において詳細な分析を行う。

3. モバイル機器の利用と依存

3.1 モバイル機器でのネット利用者割合

Q16 への回答によると、モバイル機器（スマートフォンもしくは従来型携帯電話⁵⁾）の利用者は回答者全体（n=10,596）の 92.3%を占める。この中で、Q1 への回答を基にネットを利用する端末を見ると、スマートフォンのみが 42.7%、両方ともが 34.2%、従来型携帯電話のみが 16.5%であった。スマートフォンの普及に押されて従来型携帯電話のシェアが下がってきたと言われるが、この年代においてはおそらく最初の端末として与えられた子ども向け携帯電話の利用が継続しているためであろう、従来型携帯電話の利用が根強いことがうかがわれる。

属性による比較を見ると、性別では男子の方がスマートフォンのみでの利用が多く、女子の方が両方および従来型携帯電話のみでの利用が多かった。学年別では両方どもの割合が3年生だけ特に高いほか、下の学年ほどネット非利用の割合が多い傾向が見られた。依存/非依存では依存傾向者で両方どもの割合が多く、非依存傾向者で従来型携帯電話のみの割合が多かった。

表 3.1.1 モバイル機器でのネット利用者割合 機器別×属性別比較（単位：％）

		スマート フォンのみ	両方とも	従来型 携帯電話のみ	ネット 非利用	χ^2 検定
全体	n= 9,707	42.7	34.2	16.5	6.6	
男子	n= 4,564	45.3	30.9	15.6	8.2	***
女子	n= 4,776	40.2	36.6	17.9	5.3	
1年生	n= 3,181	43.1	31.0	17.4	8.5	***
2年生	n= 3,345	43.6	31.5	18.6	6.3	
3年生	n= 3,181	41.3	40.2	13.4	5.1	
依存	n= 514	41.1	46.9	8.6	3.5	***
非依存	n= 8,189	42.8	32.9	17.4	6.9	

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** p<.001

※分析対象はモバイル機器利用者。N 数は欠損値を除いた値。四捨五入により横の合計が 100%にならない場合がある。

3.2 モバイル機器でのネット利用時間

Q2 ではスマートフォンと従来型携帯電話それぞれによる 1 日当たりのネット利用時間を尋ねているが、両者を合算して「モバイル機器でのネット利用時間」として集計したと

5) 質問紙中では従来型携帯電話のことを「ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)」と教示した。

ころ、スマートフォンのみの利用者は 164.8 分、両方利用者は 203.0 分、従来型携帯電話のみの利用者は 38.9 分となった。両方利用者における機器別の内訳はスマートフォンが 178.6 分、従来型携帯電話が 27.4 分となっており⁶⁾、スマートフォンのみの人と比べてもスマートフォンでのネット利用時間が長い。本調査では動画サイト閲覧、ソーシャルメディア利用といったネット利用の中身について、スマートフォンと従来型携帯電話を分けて尋ねていないため、両方利用者において機器をどのように使い分けているか判然としないが、おそらく従来型携帯電話では携帯電話会社の提供するキャリアメールを主に利用し、それ以外のネット上のサービスについてはスマートフォンで利用するといった使い分けがなされているのではないかと考えられる。

属性による比較を見ると、性別では女子がいずれの利用形態でも利用時間が長く、学年別ではこれもまたすべての利用形態で 3 年生が突出して長かった。依存/非依存では依存傾向者がいずれの利用形態でも利用時間が長く、スマートフォンのみの利用者や両方利用者では 5 時間前後に及んでいた。依存傾向者中の両方利用者における機器別の内訳はスマートフォンが 283.6 分、従来型携帯電話が 36.5 分であった。

表 3.2.1 モバイル機器でのネット利用時間 機器別×属性別比較（単位：分/日）

	スマートフォンのみ	両方とも	従来型携帯電話のみ
全体	164.8 (n=4,097)	203.0 (n=3,276)	38.9 (n=1,561)
男子	153.9 (n=2,046)	183.6 (n=1,386)	31.5 (n=685)
女子	173.7 (n=1,907)	214.3 (n=1,730)	44.5 (n=843)
1年生	147.6 (n=1,356)	178.6 (n=970)	36.7 (n=546)
2年生	151.3 (n=1,444)	177.5 (n=1,044)	34.1 (n=604)
3年生	197.9 (n=1,297)	242.8 (n=1,262)	48.7 (n=411)
依存	291.7 (n=210)	314.1 (n=238)	78.9 (n=42)
非依存	155.4 (n=3,472)	189.0 (n=2,669)	37.2 (n=1,393)

※分析対象はモバイル機器でのネット利用者。N 数は欠損値を除いた値。

3.3 モバイル機器の利用年数

Q1 ではスマートフォンと従来型携帯電話それぞれのネット利用開始年齢を尋ねており、各サンプルの年齢から差し引くことでネット利用年数を求めることができる。モバイル機器でのネット利用者に限り利用形態ごとに平均を求めたところ、スマートフォンのみの利用者は 2.3 年、両方利用者は 5.0 年、従来型携帯電話のみの利用者は 3.8 年となった。

⁶⁾ 両者の和は 206.0 分となっており「モバイル機器でのネット利用時間」として算出した 203.0 分と異なっているが、これは両者のうちの片方が欠損値になっているサンプルがあり、合計値のサンプル数が合計前のそれぞれと合致しないためである。ちなみに片方欠損値のサンプルについてはもう片方の数値をそのまま合計値として採用している。

両方利用者におけるスマートフォンと従来型携帯電話それぞれの平均利用年数を見ると、従来型携帯電話が 5.2 年、スマートフォンが 2.5 年となっており、どちらの機器でも各々の単独利用者に比べ早くネットを利用し始めたことがわかった。ちなみに両方利用者の（機器の違いを問わない利用年数である）5.0 年という平均年数は学年によって大きく変わらず、1 年生は 4.6 年、2 年生は 4.9 年、3 年生は 5.5 年である。この年数を調査時点の年齢から単純に差し引くと、1 年生は小学校 2～3 年の時点、2 年生は小学校 3～4 年の時点、3 年生は小学校 3～4 年の時点でそれぞれモバイル機器でのネット利用を開始したことになり、1 年生に限って言えば携帯ネット利用の低年齢化の動きが生じている可能性もある。これらのことから、両方利用者は単に両方の端末を利用しているというにとどまらず、子どもの情報機器への接触に対して寛容な家庭環境に育っている可能性が高いことをうかがわせる。

属性による比較を見ると、性別ではほとんど差が見られず、学年別では上の学年ほど利用年数が長い傾向があるが大きな差は見られなかった。依存/非依存では両方利用者と従来型携帯電話のみの利用者において若干の差が見られたが、スマートフォンのみの利用者ではほとんど差が見られなかった。

表 3.3.1 モバイル機器でのネット利用年数 機器別×属性別比較（単位：年）

	スマートフォンのみ	両方とも	従来型携帯電話のみ
全体	2.3 (n=3,685)	5.0 (n=2,999)	3.8 (n=1,068)
男子	2.3 (n=1,869)	4.9 (n=1,318)	3.8 (n=495)
女子	2.4 (n=1,803)	5.2 (n=1,675)	3.8 (n=572)
1年生	2.0 (n=1,212)	4.6 (n=893)	3.3 (n=360)
2年生	2.4 (n=1,295)	4.9 (n=950)	3.7 (n=424)
3年生	2.6 (n=1,178)	5.5 (n=1,156)	4.5 (n=284)
依存	2.5 (n=184)	5.9 (n=219)	4.5 (n=34)
非依存	2.3 (n=3,155)	5.0 (n=2,456)	3.8 (n=954)

※分析対象はモバイル機器でのネット利用者。N 数は欠損値を除いた値。

3.4 フィルタリングの利用

Q19 ではフィルタリングの利用について尋ねている⁷⁾。モバイル機器の利用者（ネット非利用者を含む）中、全体では 44.2%が調査時点で利用していた。

属性別による比較を見ると、性別では男子よりも女子の利用比率が高い一方、「利用しているかどうかわからない」の割合も女子の方が高かった。学年別では 2 年生・3 年生にほ

⁷⁾ モバイル機器の利用に関する親子間の約束事を尋ねた Q18 については「4.5 保護者との約束」に掲載した。

とんど差が無いのに対して1年生では「最初から利用していない」の割合が低く「わからない」の割合が高い結果となった。依存/非依存では利用者割合はほとんど差が無いものの、「最初から利用していない」「利用したが解除した」の割合は依存傾向の方が高かった。フィルタリングは青少年にとって有害なサイトへのアクセスを防止するためのものであり使いすぎが主な課題であるネット依存と直接関わるものではないが、フィルタリングをかけないことによって様々なサイトへのアクセスが生じ、結果的に使いすぎにもつながっていく可能性のあることがこの結果から示唆される。

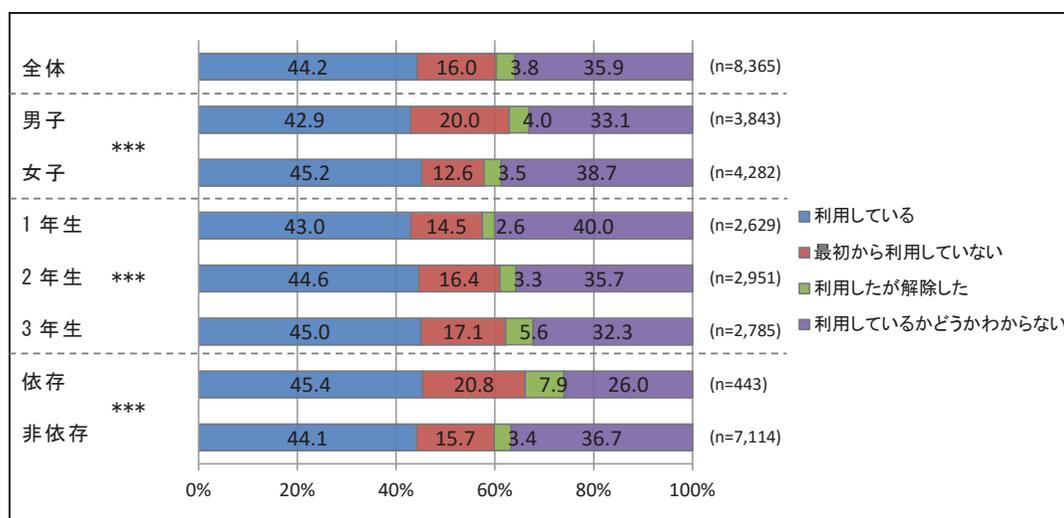


図 3.4.1 フィルタリングの利用 属性別比較 (単位: %)

※記号はχ二乗検定結果の有意水準を表す: *** p<.001

※分析対象はモバイル機器利用者 (ネット非利用者も含む)。N 数は欠損値を除いた値。四捨五入により横の合計が 100%にならない場合がある。

4. 心理特性、対人関係とネット依存

本章では、心理的特性や日常生活における対人関係（友人・親子）に焦点をあて、これらとインターネット依存傾向との関連について検討する。

分析に際しては、平均値の差の検定はt検定（性別、依存傾向／非依存傾向）および分散分析（学年）を使用し、名義尺度間の差の検定はカイ二乗検定を使用した。なお、DK・NAを除いた有効回答数で分析を行っているため、質問項目によってN数は異なる。

4.1 心理特性

本調査では、「社交性」（問 23(1)～(3))、「抑うつ」（問 23(4)～(6))、「孤独感」（問 26(1)～(3))、「公的自意識」（問 26(5)～(7)、(9)）の4つ心理特性に関する質問を設けた。各特性は、先行研究より抜粋した3～4の質問項目で構成されており、それぞれの項目について「あてはまる」～「あてはまらない」の4件法で回答を求めている。分析に際しては、4つの心理特性に関して、各項目への回答を単純加算し（「あてはまる」4点～「あてはまらない」1点）、項目数で除して算出したスケール（尺度）を使用した。各心理特性の項目と出典は下記のとおりである。

・ 社交性 ※A. H. バス（1991）より

人と一緒にいるのが好きだ

人とのつき合いは自分にとっていつも刺激的だ

人づき合いの機会があれば、よろこんで参加する。

・ 抑うつ ※Zung, W. W. K. (1965)（邦訳は福田・小林(1983)を参考に一部改訂）より

今の生活は充実している（逆転項目）

気分が沈んで憂うつになることがよくある

夜よく眠れない

・ 孤独感 ※改訂版 UCLA 孤独感尺度（邦訳は工藤・西川（1983））より

私は自分の周囲の人たちとうまくいっている（逆転項目）

私には頼りにできる人が誰もいない

私は周りの人たちと興味や考え方があわないと思うことがよくある

・ 公的自意識 ※菅原（1984）より

自分が他人にどう思われているのか気になる

自分についての噂に関心がある

人前で何かするとき、自分の仕草や姿が気になる

他人からの評価を考えながら行動する

表 4.1.1 は、「社交性」、「抑うつ」、「孤独感」、「公的自意識」の各得点を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。ここでは、得点が高いほど各心理傾向が強いことを意味している。表に示された通り、回答者全体では、4 つの心理特性の中で社交性 (3.15) の得点が最も高く、以下、公的自意識 (2.64)、孤独感 (2.01)、抑うつ (1.96) と続いている。性別では、統計的な有意差がみられたのは抑うつ、孤独感、公的自意識の3つで、抑うつ (男性 1.92、女性 2.00) と公的自意識は (男性 2.61、女性 2.66) は女性の方が、孤独感 (男性 2.05、女性 1.96) は男性の方が得点が高かった。学年別では、統計的な有意差がみられたのは社交性、孤独感、公的自意識の3つで、社交性と孤独感は3年生の得点以外の学年より高く、公的自意識は1年生の得点が高い結果となった。依存傾向別では、4 つの心理特性すべてにおいて統計的な有意差がみられ、抑うつ、孤独感、公的自意識において依存傾向者は非依存傾向者よりも得点が高く、特に抑うつに関しては非依存傾向者との得点差 (依存 2.52、非依存 1.92、差 0.60) が著しかった。また、社交性のみ、非依存傾向者の方が得点が高い結果となった。つまり、ネット依存傾向者は精神的に不健康な傾向がみられ、また、他者の評価を意識し、社交性が低い傾向もあることが示された。

表 4.1.1 心理特性

	社交性			抑うつ			孤独感			公的自意識		
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
全体	3.15		10235	1.96		10210	2.01		10161	2.64		10125
男性	3.16	†	5076	1.92	***	5052	2.05	***	5052	2.61	***	5034
女性	3.15		4979	2.00		4985	1.96		4969	2.66		4954
1年生	3.14	a	3447	1.94	a	3433	1.98	a	3412	2.66	b	3397
2年生	3.11	a ***	3514	1.98	a †	3517	2.01	ab **	3499	2.61	a *	3492
3年生	3.22	b	3274	1.97	a	3260	2.04	b	3250	2.64	ab	3236
依存傾向者	2.95	***	521	2.52	***	523	2.34	***	520	2.93	***	516
非依存傾向者	3.16		8711	1.92		8687	1.99		8661	2.62		8636

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, †<0.10

※abの記号は Tukey の多重範囲検定の結果同記号間において 5%水準で有意差がないことを示す

表 4.1.2 は、心理特性を構成する項目について、依存傾向別に得点を比較したものである。表 4.1.1 において依存／非依存傾向間で最も得点差が見られた「抑うつ」に注目すると、「夜よく眠れない」(依存 2.64、非依存 1.83、差 0.81)、「気分が沈んで憂鬱になることがよくある」(依存 2.98、非依存 2.27、差 0.71) の依存傾向者の得点为非依存傾向者と比べて顕著に高いことがわかる。ネット依存傾向と日常生活、健康面への負の影響との関連が示唆される。

表 4.1.2 心理特性の各項目得点（ネット依存傾向別）

心理尺度	項目	得点		t検定	N
社交性	人と一緒にいるのが好きだ	依存傾向	3.09	***	526
		非依存傾向	3.44		8793
	人とのつき合いは自分にとっていつも刺激的だ	依存傾向	2.95	†	523
		非依存傾向	3.02		8742
	人づきあいの機会があれば、よろこんで参加する	依存傾向	2.80	***	523
		非依存傾向	3.04		8756
抑うつ	今の生活は充実している(逆転項目)	依存傾向	3.05	***	525
		非依存傾向	3.33		8730
	気分が沈んで憂鬱になることがよくある	依存傾向	2.98	***	525
		非依存傾向	2.27		8730
	夜よく眠れない	依存傾向	2.64	***	525
		非依存傾向	1.83		8764
孤独感	私は周りの人たちとうまくいっている(逆転項目)	依存傾向	2.84	***	523
		非依存傾向	3.14		8715
	私には頼りにできる人が誰もいない	依存傾向	2.01	***	522
		非依存傾向	1.66		8715
	私は周りの人たちと興味や考え方があわないと思うことがよくある	依存傾向	2.85	***	523
		非依存傾向	2.45		8693
公的自意識	自分が他人にどう思われているのか気になる	依存傾向	3.10	***	522
		非依存傾向	2.83		8703
	自分についての噂に関心がある	依存傾向	2.84	***	522
		非依存傾向	2.50		8703
	人前で何かをするとき、自分の仕草や姿が気になる	依存傾向	2.98	***	522
		非依存傾向	2.65		8703
	他人からの評価を考えながら行動する	依存傾向	2.79	***	520
		非依存傾向	2.49		8704

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, †<0.10

表 4.1.3 ネット依存傾向者の心理特性

	社交性			抑うつ			孤独感			公的自意識			
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	
男性	2.98	n.s.	227	2.46	†	227	2.34	n.s.	230	2.81	**	226	
女性	2.92		285	2.58		287	2.33		282	3.03		282	
1年生	2.91	n.s.	196	2.53	n.s.	197	2.29	n.s.	195	3.03	a	191	
2年生	2.94		172	2.54		173	2.34		173	2.73	b	**	174
3年生	3.00		153	2.48		153	2.40		152	3.04	a	151	

※分析母数はネット依存傾向者 ** p<0.01, †<0.10, n.s. 有意差なし

※abの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

次に、ネット依存傾向者の心理特性を性別・学年別にまとめた（表 4.1.3）。表に示されたとおり、社交性、抑うつ、孤独感については、性別・学年別共に統計的な有意差はみら

れなかった。公的自意識については、性別では女性、学年別では1年生と3年生において、統計的に有意に公的自意識の得点が高かった。すなわち、女性と1年生、3年生において、他者の目・評価を意識する傾向が強いことが示された。

4.2 対人関係・生活満足度

調査では、友人・保護者との関係や学校生活に対する満足度をたずね、それぞれについて「満足」～「不満」の4件法で回答を求めた(問22)。分析に際しては、各回答を「満足」4点～「不満」1点で得点化し、その平均値を使用した。

表4.2.1は、各満足度得点を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。全体の得点では、友人満足度(3.53)、保護者満足度(3.37)、学校生活満足度(3.28)の順に評価が高かった。いずれも4点満点の8割以上の得点となっており、満足度は高い傾向にあると考えられる。性別では、友人満足度と学生生活満足度は男性の方が得点が高く、保護者満足度は女性の方が得点が高かった。学年別では、3年生が友人、保護者、学校生活の全ての満足度において他の学年よりも得点が高く、満足度合いが高い傾向がみられた。依存傾向別でみると、友人、保護者、学校生活の全てにおいて依存傾向者は非依存傾向者よりも満足度が低い結果となった。特に、保護者満足度(依存2.85、非依存3.41、差0.56)と学校生活満足度(依存2.80、非依存3.32、差0.52)において依存傾向者の得点は低く、非依存傾向者との得点差が大きい。以上から、ネット依存傾向者の対人関係や学校生活が充実していない様子がうかがえる。

表 4.2.1 対人関係・生活満足度

	友人満足度			保護者満足度			学校生活満足度		
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
全体	3.53		10319	3.37		10304	3.28		10301
男性	3.57	***	5107	3.34	***	5096	3.31	**	5093
女性	3.49		5022	3.40		5018	3.26		5017
1年生	3.50	a	3473	3.35	a	3464	3.24	a	3465
2年生	3.51	a ***	3543	3.35	a **	3540	3.25	a ***	3538
3年生	3.58	b	3303	3.41	b	3300	3.38	b	3298
依存傾向者	3.26	***	524	2.85	***	524	2.80	***	524
非依存傾向者	3.54		8781	3.41		8766	3.32		8761

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01

※abの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

次に、ネット依存傾向者の対人関係・生活満足度について、性別・学年別にまとめた(表4.2.2)。表に示されたとおり、友人満足度と保護者満足度においては統計的な有意差はみ

られなかった。学校生活満足に関しては統計的な有意差がみられ、1年生が2.66、2年生が2.76、3年生が3.02というように、**学年が低いほど学校生活満足度も低いことが明らかになった。**

表 4.2.2 ネット依存傾向者の対人関係・生活満足度

	友人満足度			保護者満足度			学校生活満足度		
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
男性	3.33	n.s.	228	2.83	n.s.	228	2.87	n.s.	228
女性	3.21		287	2.86		287	2.75		287
1年生	3.24	n.s.	197	2.77	n.s.	196	2.66	a	196
2年生	3.24		173	2.82		174	2.76	ab **	174
3年生	3.32		154	2.99		154	3.02	b	154

※分析母数はネット依存傾向者 ** p<0.01, n.s. 有意差なし

※abの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

4.3 友人関係

調査では、友人関係について詳細に問う項目を設けた(問24)。質問項目には、一部、落合・佐藤(1996)(問24(6))、杉浦(2000)(問24(8)、(9))で使用された項目を用いている。調査票では、各項目について、「あてはまる」～「あてはまらない」の4件法で回答を求め、分析に際しては各回答を「あてはまる」4点～「あてはまらない」1点で得点化し、その平均値を使用した。

表4.3.1は、友人関係に関する意識を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。全体の得点では、「友だちと一緒にいると楽しい」(3.54)が最も高く、「友だちでもずっと一緒にいたら疲れる」(2.28)が最も低い得点であった。性別で特に得点に差が生じたのは、「友だちなどからいろいろと相談されることが多い」(男性2.37、女性2.89、差0.52)、「友だちによく悩み事を相談する」(男性2.18、女性2.66、差0.48)であった。すなわち、女性は友人と互いに相談しあう傾向がある一方で、男性はそういった関係性ではない傾向が強いことが示唆される。学年別では、充実した友人関係を示す項目(「友だちの数は多い方だ」、「友だちと一緒にいると楽しい」と、友人関係への気遣いを示す項目(「どんな時でも相手の機嫌を損ねたくない」、「できるだけ敵は作りたくない」)の双方において、統計的に有為に1年生の得点が高かった。1年生においては、友好関係の維持・構築に気を使いながら、多くの友人と交流している様子がうかがえる。依存傾向別では、「友だちでもずっと一緒にいたら疲れる」(依存2.75、非依存2.25、差0.50)で**依存/非依存間の得点差が最も大きく**、充実した友人関係を示す「友だちの数は多い方だ」(依存2.77、非依存2.98)や「不満なことがあった場合に聞いてくれる人がある」(依存2.95、非依存3.19)の得点

は依存傾向の方が低かった。また、友人関係への気遣いを示す「どんな時でも相手の機嫌を損ねたくない」（依存 2.99、非依存 2.80）の得点は依存傾向の方が高かった。つまり、依存傾向者は、友人関係において負担や気遣いを感じており、満ち足りていない傾向があると推測できる。

表 4.3.1 友人関係

	友だちの数は多い方だ			友だちでもずっと一緒にいたら 疲れる			友だちによく悩み事を相談する			男女にかかわらず友だちにな れる		
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
全体	2.97		10288	2.28		10300	2.42		10250	2.88		10263
男性	3.00	***	5108	2.25	**	5106	2.18	***	5079	2.86	*	5084
女性	2.93		5007	2.31		5022	2.66		5000	2.90		5007
1年生	3.07	a	3469	2.19	a	3474	2.41	n.s.	3449	2.91	a	3458
2年生	2.95	b ***	3536	2.29	b ***	3541	2.41		3521	2.86	ab *	3528
3年生	2.88	c	3283	2.37	c	3285	2.44		3280	2.85	b	3277
依存傾向者	2.77	***	523	2.75	***	520	2.47	n.s.	520	2.89	n.s.	519
非依存傾向者	2.98		8756	2.25		8763	2.41		8718	2.87		8735
	友だちと分かりあおうとして、少 しくらい傷ついても構わない			どんな友だちとも仲良しいた い			友だちと一緒にいると楽しい			どんな時でも相手の機嫌を損 ねたくない		
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
全体	2.56		10280	2.88		10283	3.54		10261	2.82		10273
男性	2.56	n.s.	5095	2.91	**	5097	3.52	***	5090	2.88	***	5099
女性	2.56		5018	2.85		5017	3.58		5002	2.76		5010
1年生	2.58	n.s.	3468	2.93	a	3462	3.58	a	3456	2.87	a	3460
2年生	2.55		3537	2.86	b ***	3539	3.53	b ***	3525	2.80	b ***	3529
3年生	2.57		3275	2.84	b	3282	3.52	b	3280	2.78	b	3284
依存傾向者	2.67	*	521	2.69	***	520	3.33	***	521	2.99	***	521
非依存傾向者	2.55		8750	2.89		8750	3.56		8730	2.80		8741
	できるだけ敵は作りたくない			不満があった場合に聞 いてくれる人がいる			友だちなどからいろいろと相談 されることが多い					
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
全体	3.17		10293	3.17		10219	2.63		10219			
男性	3.19	*	5107	3.00	***	5071	2.37	***	5083	***	***	4995
女性	3.15		5023	3.34		5011	2.89		4995			
1年生	3.24	a	3469	3.18	n.s.	3443	2.61	n.s.	3440	n.s.	n.s.	3440
2年生	3.15	b ***	3539	3.17		3516	2.63		3517			
3年生	3.11	b	3285	3.16		3260	2.65		3262			
依存傾向者	3.33	***	522	2.95	***	522	2.73	***	523	***	***	523
非依存傾向者	3.16		8759	3.19		8701	2.63		8702			

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n.s. 有意差なし

※abcの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

4.4 保護者との関係

本調査では、中学生と保護者との関係についても詳細にたずねた（問 25）。ここでは、自分が保護者からどのように評価されていると感じているか、また、自分が保護者をどのように評価しているか、の両側面について質問項目を設けている。各項目に関して、「あて

はまる」～「あてはまらない」の4件法で回答を求め、分析に際しては、各回答を「あてはまる」4点～「あてはまらない」1点で得点化し、その平均値を使用した。

表 4.4.1 保護者との関係

	普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる			日ごろからあなたの実力を評価し、認めてくれる			あなたを信頼している			あなたが落ち込んでいると、元気づけてくれる		
	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N	得点	検定	N
全体	3.01		10283	2.84		10279	3.07		10256	2.96		10274
男性	3.00	†	5100	2.78	***	5098	3.00	***	5094	2.88	***	5099
女性	3.03		5022	2.90		5021	3.14		5005	3.06		5016
1年生	3.02	n.s.	3469	2.80	a ***	3463	3.06	n.s.	3455	2.95	ab	3460
2年生	2.99		3530	2.81		3533	3.05		3527	2.94		3531
3年生	3.01		3284	2.91		3283	3.09		3274	3.00		3283
依存傾向者	2.61	***	522	2.47	***	523	2.71	***	519	2.69	***	521
非依存傾向者	3.04		8747	2.87		8747	3.10		8732	2.99		8743
	どんなに困ったことでも助けてくれる			相談しやすい			一緒にいて楽しい			しつげに厳しい		
全体	3.03		10269	2.75		10272	3.05		10254	2.65		10249
男性	2.96	***	5103	2.69	***	5098	2.88	***	5086	2.68	*	5083
女性	3.10		5011	2.82		5017	3.22		5012	2.63		5008
1年生	3.03	n.s.	3462	2.76	n.s.	3462	3.09	a	3452	2.72	a	3458
2年生	3.02		3528	2.73		3531	3.02		3528	2.65		3523
3年生	3.03		3279	2.77		3279	3.04		3274	2.58		3268
依存傾向者	2.77	***	522	2.37	***	520	2.72	***	521	2.79	**	518
非依存傾向者	3.05		8738	2.78		8741	3.08		8730	2.64		8726
	あなたに干渉しすぎる			あなたに関心がない			あなたを嫌っている					
全体	2.19		10122	1.75		10240	1.53		10221			
男性	2.27	***	5041	1.84	***	5091	1.62	***	5077			
女性	2.11		4930	1.64		4994	1.43		4990			
1年生	2.17	a ***	3387	1.73	n.s.	3450	1.49	a	3441			
2年生	2.17		3481	1.74		3517	1.54		3518			
3年生	2.23		3254	1.77		3273	1.58		3262			
依存傾向者	2.53	***	513	2.05	***	521	1.82	***	519			
非依存傾向者	2.16		8628	1.71		8709	1.50		8699			

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, †<0.10, n.s. 有意差なし

※abcの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

表 4.4.1 は、保護者との関係に関する意識について、性別、学年別、依存傾向別に示したものである。全体の得点では、「あなたを信頼している」(3.07)、「普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる」(3.01)といった保護者からのポジティブな評価を認識している項目や、「一緒にいて楽しい」(3.05)といった保護者に対するポジティブな評価に関する項目の得点が高い傾向がみられた。性別では、保護者からのポジティブな評価(問 25(2)、(3))や保護者に対するポジティブな評価(問 25(4)～(7))に関する項目は概ね女性の方

が得点が高く、保護者に対するネガティブな評価（問 25(8)～(11)）に関する項目は男性の方が得点が高かった。すなわち、女性の方が保護者との関係が良好であると推測できる。学年別では、11 項目中 6 項目で統計的な有意差が確認できたが、項目内容と学年との関係に一貫した傾向はみられなかった。依存傾向別では、保護者からのポジティブな評価（問 25(1)～(3)）や保護者に対するポジティブな評価（問 25(4)～(7)）に関する項目については全て依存傾向者は非依存傾向者よりも得点が低く、保護者に対するネガティブな評価（問 25(8)～(11)）に関する項目はすべて依存傾向者は非依存傾向者よりも得点が高かった。この結果から、依存傾向者は保護者との間に良好な関係性を築けていない傾向にあることが示唆される。

4.5 保護者との約束

調査では、スマートフォン／ガラケーの利用にあたっての保護者との約束事項について確認した（問 18）。調査票では、各項目に関して、約束の有無を複数回答可で回答を求めている。

表 4.5.1 保護者との約束

	「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している			「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている			自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない			食事中はスマートフォンやガラケーを使わない		
	該当率	検定	N	該当率	検定	N	該当率	検定	N	該当率	検定	N
全体	21.4%		8711	9.1%		8711	15.5%		8711	60.0%		8711
男性	19.4%		4023	10.3%		4023	14.8%	†	4023	54.3%		4023
女性	23.2%	***	4450	7.9%	***	4450	16.2%		4450	65.3%	***	4450
1年生	29.8%		2775	14.0%		2775	20.1%		2775	65.9%		2775
2年生	21.7%	***	3057	7.9%	***	3057	15.6%	***	3057	62.0%	***	3057
3年生	12.9%		2879	5.5%		2879	10.9%		2879	52.2%		2879
依存傾向者	20.4%		465	6.9%		465	11.8%	*	465	55.5%	*	465
非依存傾向者	21.3%	n.s.	7405	9.1%	n.s.	7405	15.8%		7405	60.4%		7405
	利用料金の上限を決めている			成績が下がったら利用を制限する			その他			約束していることはない		
	該当率	検定	N	該当率	検定	N	該当率	検定	N	該当率	検定	N
全体	16.2%		8711	15.7%		8711	6.5%		8711	26.5%		8711
男性	14.3%		4023	16.6%	*	4023	5.1%		4023	30.5%		4023
女性	17.7%	***	4450	15.0%		4450	7.8%	***	4450	22.8%	***	4450
1年生	18.1%		2775	22.2%		2775	8.4%		2775	19.5%		2775
2年生	15.2%	**	3057	16.0%	***	3057	6.8%	***	3057	25.5%	***	3057
3年生	15.5%		2879	9.2%		2879	4.5%		2879	34.4%		2879
依存傾向者	18.3%		465	20.4%	**	465	7.7%	n.s.	465	29.5%		465
非依存傾向者	16.1%	n.s.	7405	15.4%	**	7405	6.4%	n.s.	7405	26.6%	n.s.	7405

※分析母数はスマートフォン／ガラケー利用者

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, †<0.10, n.s. 有意差なし

表 4.5.1 は、保護者との約束について、各項目への該当率を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。表に示された通り、全体の該当率では「**食事中はスマートフォンやガラケーを使わない**」(60.0%)が**顕著に高く、6割**であった。一方で、「**約束していることはない**」(26.5%)も**3割弱**みられた。性別では、一項目を除いて統計的な有意差が確認され、「食事中はスマートフォンやガラケーを使わない」(男性 54.3%、女性 65.3%)は女性の該当率が顕著に高く、「約束していることはない」(男性 30.5%、女性 22.8%)は男性の該当率が顕著に高かった。学年別では、全ての項目で統計的な有意差がみられ、「約束していることはない」のみ学年が高いほど該当率が高く、他の項目については概ね学年が低いほど該当率が高い結果となった(「利用料金の上限を決めている」のみ1年生>3年生>2年生)。依存傾向別でみると、統計的な有意差がみられた3項目の中では、「成績が下がったら利用を制限する」(依存傾向 20.4%、非依存傾向 15.4%)のみ依存傾向の方が該当率が高く、他の2項目である「自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない」(依存傾向 11.8%、非依存傾向 15.8%)、「食事中はスマートフォンやガラケーを使わない」(依存傾向 55.5%、非依存傾向 60.4%)では非依存傾向の方が該当率が高かった。

表 4.5.2 保護者との約束とネット依存傾向

保護者との約束	依存傾向者率	χ^2 検定	N
「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している	非該当 6.0%	n.s.	6201
	該当 5.7%		
「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている	非該当 6.0%	n.s.	7166
	該当 4.5%		
自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない	非該当 6.2%	*	6646
	該当 4.5%		
食事中はスマートフォンやガラケーを使わない	非該当 6.6%	*	3141
	該当 5.5%		
利用料金の上限を決めている	非該当 5.8%	n.s.	6596
	該当 6.7%		
成績が下がったら利用を制限する	非該当 5.6%	**	6634
	該当 7.7%		
その他	非該当 5.8%	n.s.	7360
	該当 7.1%		
約束していることはない	非該当 5.7%	n.s.	5765
	該当 6.5%		

※分析母数はスマートフォン／ガラケー利用者 ** p<0.01, * p<0.05, n.s. 有意差なし

ネット依存傾向と保護者との約束との関連を検討するため、各項目の依存傾向者率を確

認した（表 4.5.2）。表に示された通り、統計的な有意差がみられたのは 3 項目で、「成績が下がったら利用を制限する」該当群において依存傾向者率が 7.7%と高かった。有意差がみられた他の 2 項目（「自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない」、「食事中はスマートフォンやガラケーを使わない」）については、依存傾向者は非該当群に多い、つまり約束していない割合が高かった。したがって、「成績が下がったら利用を制限する」という約束事とネット依存傾向との間に関連があることが推測される。

<参考文献>

- Buss, A. H. (1986) *Social Behavior and Personality*, Lawrence Erlbaum Assoc Inc. (A. H. バス著・大淵憲一監訳『対人行動とパーソナリティ』, 北大路書房, 1991)
- 福田一彦・小林重雄(1983)『日本版自己評価式抑うつ性尺度(SDS)使用手引き』, 三京書房.
- 工藤力・西川正之(1983)「孤独感に関する研究(I)—孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討—」, 『実験社会心理学研究』Vol.22(2), 99-108.
- 落合良行・佐藤有耕(1996)「青年期における友達とのつきあい方の発達的变化」, 『教育心理学研究』, 44(1), 55-65.
- 菅原健介(1984)「自意識尺度(self-consciousness scale)日本語版作成の試み」, 『心理学研究』, 55(3), 184-188.
- 杉浦健(2000)「2つの親和動機と対人的疎外感との関係:その発達的变化」, 『教育心理学研究』, 48(3), 352-360.
- Zung, W. W. K. (1965) A Self-rating Depression Scale. *Archives of General Psychiatry*, 12(1), 63-70.

5. ネット依存に関わる要因の多変量解析

この章では様々な説明変数群ごとに、依存得点および依存傾向者／非依存傾向者との関連を、重回帰分析およびロジスティック回帰分析によって明らかにする。

なお、依存傾向測定尺度（問 4(1)～(12)、問 14(1)～(8)）のうち、1問でも回答がない場合、依存度および依存傾向の有無の計算において欠損値として処理している。また、多変量解析において、説明変数のいずれかにおいて欠損値が生じている場合は、その調査対象者を分析から除外しているため、それぞれの分析において分析対象者(N)は最大 9475 人、実際にはそれをさらに下回る数値になっている。

この章では、すべての多変量解析結果において、単に変数間の相関量の大小を示したに過ぎず、どの要因が最も大きな影響因である、というような**因果の推定はできない**ということに注意すべきである。

5.1 情報機器利用時間と依存

表 5.1.1-5.1.2 は情報機器（パソコン、スマートフォン、ガラケー、タブレット端末）の平日 1 日の平均利用時間（非利用者は 0 として計算）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.1.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.1.2）を示したものである。

いずれの分析においても**性、学年を統制変数として説明変数群に加えている**（以下、本章における多変量解析ではすべて同様）。

分析対象者数が多いため、多くの変数が t 検定結果で危険率 0.1%未満の水準で有意になるため、本章では「標準化回帰係数」大小により関連の大きさを比較する。

表 5.1.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連を持つのは「スマートフォン」の利用時間**である。このことは、表 5.1.2 でも同様に該当し、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのはスマートフォンの利用時間である。

表 5.1.1 情報機器の利用時間と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	38.691	84.21	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-2.055	-6.47	<.0001	-0.066	1.01456
学年	-0.976	-4.92	<.0001	-0.051	1.02698
パソコン	0.039	18.78	<.0001	0.195	1.05153
スマートフォン	0.038	35.40	<.0001	0.365	1.03236
ガラケー	-0.004	-1.21	0.2246	-0.013	1.06398
タブレット	0.031	15.53	<.0001	0.160	1.03392

N=7677 F値:340.9 <0.0001 調整済R二乗:0.2099

表 5.1.2 情報機器の利用時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.983	433.61	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.134	1.63	0.2017	-0.037	0.875
学年	-0.336	26.54	<.0001	-0.149	0.715
パソコン	0.005	95.02	<.0001	0.192	1.005
スマートフォン	0.004	224.40	<.0001	0.305	1.004
ガラケー	-0.001	0.27	0.6028	-0.013	1
タブレット	0.002	17.89	<.0001	0.092	1.002

N=7677 Wald χ^2 二乗値: 347.2 <0.0001

5.2 諸サービスの利用時間と依存

表 5.2.1-5.2.2 はネットでの諸サービス（動画サイトを見る、ソーシャルメディアを見る等）の平日 1 日の平均利用時間（非利用者は 0 として計算）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.2.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.2.2）を示したものである。質問ではパソコンないしタブレット端末の利用とモバイル（スマートフォンないしガラケー）での利用に分けて時間を聞いており、分析では、説明変数として同時に投入している（【PC】と書かれた欄以下の 7 項目が PC／タブレットでの利用、【モバイル】と書かれた欄以下の 7 項目がスマートフォン／ガラケーでの利用）。

表 5.2.1 諸サービスの利用時間と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	37.562	74.44	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-2.836	-7.77	<.0001	-0.091	1.11249
学年	-0.146	-0.67	0.5053	-0.008	1.023
【PC】 動画サイト	0.032	10.74	<.0001	0.140	1.36729
ソーシャルメディアを見る	0.051	7.65	<.0001	0.137	2.57315
ソーシャルメディア書き込み	-0.012	-1.52	0.1276	-0.027	2.54599
ソーシャルメディア通話	-0.012	-1.55	0.1214	-0.020	1.3323
ゲーム	0.018	5.58	<.0001	0.075	1.45447
ニュースサイト	-0.031	-2.83	0.0046	-0.037	1.36382
ブログを見る	0.004	0.31	0.7545	0.004	1.27331
【モバイル】 動画サイト	0.044	13.92	<.0001	0.178	1.3193
ソーシャルメディアを見る	0.025	8.81	<.0001	0.149	2.30408
ソーシャルメディア書き込み	0.010	2.71	0.0067	0.045	2.21181
ソーシャルメディア通話	0.025	4.41	<.0001	0.056	1.30865
ゲーム	0.020	7.35	<.0001	0.098	1.4167
ニュースサイト	0.004	0.39	0.6956	0.005	1.3008
ブログを見る	0.009	1.20	0.2319	0.015	1.25001

N=6337 F値:107.4 <0.0001 調整済R二乗:0.2118

表 5.2.1 に示される通り、依存度に最も大きな関連を持つのは「モバイルによる動画サ

イトの閲覧」の利用時間であり、次いで「モバイルによるソーシャルメディアの閲覧」である。このことは、表 5.2.2 でも同様に該当し、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのはモバイルによる動画サイトの閲覧の利用時間である。PC による動画サイトの閲覧およびソーシャルメディアの閲覧も依存との関係が深い。

表 5.2.2 諸サービスの利用時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.973	323.57	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.283	4.93	0.0264		0.753
学年	-0.244	10.59	0.0011		0.783
【PC】 動画サイト	0.003	12.71	0.0004	0.097	1.003
ソーシャルメディアを見る	0.002	2.34	0.1262	0.054	1.002
ソーシャルメディア書き込み	0.002	1.34	0.2478	0.040	1.002
ソーシャルメディア通話	0.000	0.02	0.8813	-0.004	1
ゲーム	0.003	11.67	0.0006	0.089	1.003
ニュースサイト	-0.007	3.22	0.0726	-0.070	0.993
ブログを見る	-0.004	1.05	0.3053	-0.035	0.996
【モバイル】 動画サイト	0.004	27.85	<.0001	0.128	1.004
ソーシャルメディアを見る	0.002	8.56	0.0034	0.100	1.002
ソーシャルメディア書き込み	0.001	0.73	0.3918	0.027	1.001
ソーシャルメディア通話	0.004	13.59	0.0002	0.080	1.004
ゲーム	0.002	6.09	0.0136	0.065	1.002
ニュースサイト	0.000	0.02	0.8981	0.004	1
ブログを見る	0.000	0.08	0.7831	-0.006	1
N=6337		Wald χ^2 乗値: 246.2 <0.0001			

5.3 ソーシャルメディアの利用時間と依存

表 5.3.1-5.3.2 はソーシャルメディア（LINE、Twitter、FaceBook、mixi、それ以外のソーシャルメディア）の平日 1 日の平均利用時間（非利用者は 0 として計算）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.3.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.3.2）を示したものである（この質問では「利用していない」にもチェックをいれていない非回答（欠損値）がかなり多い）。

表 5.3.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連を持つのは Twitter の利用時間**である。表 5.3.2 で、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「その他のソーシャルメディア」であるが（利用者は調査対象者全体の 17.8%）、「その他」の具体的なサービスは不明である。それを除けば、やはり Twitter との関連が最も大きい。

表 5.3.1 ソーシャルメディアの利用時間と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	46.124	82.45	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-1.001	-2.61	0.0091	-0.033	1.04562
学年	-1.322	-5.56	<.0001	-0.071	1.03758
LINE	0.015	7.95	<.0001	0.112	1.26401
Twitter	0.033	11.85	<.0001	0.173	1.36521
FaceBook	0.015	1.19	0.233	0.017	1.2336
mixi	0.021	1.66	0.097	0.023	1.17883
その他	0.046	11.04	<.0001	0.144	1.09521
N=5739 F値:96.6 <0.0001 調整済R二乗:0.1044					

表 5.3.2 ソーシャルメディアの利用時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.381	252.06	<.0001		
性(男:1,女:0)	0.005	0.00	0.9661	0.001	1.005
学年	-0.303	19.95	<.0001	-0.134	0.738
LINE	0.001	5.03	0.025	0.057	1.001
Twitter	0.003	41.79	<.0001	0.149	1.003
FaceBook	0.007	8.85	0.0029	0.068	1.007
mixi	0.002	0.69	0.4046	0.018	1.002
その他	0.006	67.95	<.0001	0.167	1.006
N=5739 Waldχ二乗値:193.6 <0.0001					

5.4 「よくやりとりする相手の人数」と依存

表 5.4.1-5.4.2 は「ソーシャルメディアのでよくやりとりする相手の種別毎人数」(家族、同じ学校の友だち、学校外の活動を通じて知り合った友だち、ソーシャルメディア上で初めて知り合い実際に会ったこともある友だち、ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし実際には会ったことのない友だち)を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.4.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.4.2)を示したものである。

表 5.4.1 に示される通り、依存度に最も大きな関連を持つのは「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし実際には会ったことのない友だちの数」である。「家族」において負の相関が見られるのが興味深い。すなわち、家族とソーシャルメディアでよくやり取りする人はネット依存になりやすいことが示唆されている。

表 5.4.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし実際には会ったことのない友だちの数」であり、家族とは負の相関が示されている。

表 5.4.1 「よくやりとりする相手の人数」と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	48.639	79.42	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-2.561	-6.81	<.0001	-0.086	1.0068
学年	-0.848	-3.62	0.0003	-0.046	1.00764
家族	-0.463	-3.95	<.0001	-0.051	1.07776
同じ学校の友だち	0.024	3.81	0.0001	0.054	1.28357
学校外の活動の知り合い	0.001	0.09	0.9301	0.001	1.29568
SM上で知り合い,面会経験あり	0.153	6.57	<.0001	0.086	1.098
SM上だけでやりとりする人	0.017	9.39	<.0001	0.119	1.02472

N=6123 F値: 36.1 <0.0001 調整済R二乗: 0.0386

表 5.4.2 「よくやりとりする相手の人数」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.048	171.17	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.234	5.22	0.0224	-0.064	0.792
学年	-0.236	13.90	0.0002	-0.104	0.79
家族	-0.049	2.27	0.1322	-0.045	0.952
同じ学校の友だち	0.001	0.91	0.3394	0.028	1.001
学校外の活動の知り合い	0.002	0.58	0.4482	0.020	1.002
SM上で知り合い,面会経験あり	0.017	17.51	<.0001	0.078	1.017
SM上だけでやりとりする人	0.002	34.00	<.0001	0.094	1.002

N=6123 Wald χ^2 二乗値: 87.0 <0.0001

5.5 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存

表 5.5.1-5.5.2 は「ソーシャルメディアを利用する目的」(11 項目)を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.5.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.5.2)を示したものである。この質問は複数回答であるため、該当(○がつけられた場合)を1、非該当を0として計算した。

表 5.5.1 に示される通り、**依存度**に最も大きな関連を持つのは「**現実から逃れるため**」という利用目的である。「**ストレス解消のため**」がそれに次ぐ。

表 5.5.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「**現実から逃れるため**」、次いで「**ストレス改称のため**」という利用目的である。

表 5.5.1 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	42.370	68.06	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-0.076	-0.23	0.8149	-0.003	1.04691
学年	-1.077	-5.40	<.0001	-0.058	1.02103
1. 友だちや知り合いとコミュニケーション	0.794	1.93	0.0535	0.022	1.18235
2. 新しく友だちを作るため	4.539	9.16	<.0001	0.103	1.12491
3. 学校・部活動などの事務的な連絡のため	-3.567	-9.64	<.0001	-0.110	1.16863
4. 周囲の人も使っているため	2.439	6.93	<.0001	0.078	1.14615
5. 自分の近況や気持ちを知ってもらうため	3.108	5.80	<.0001	0.066	1.17161
6. 情報収集のため	0.506	1.47	0.1413	0.017	1.18106
7. 写真・動画などを気軽に投稿・シェア	4.147	10.84	<.0001	0.127	1.23479
8. ひまつぶしのため	3.857	11.11	<.0001	0.126	1.14169
9. ストレス解消のため	6.179	12.24	<.0001	0.152	1.3791
10. 現実から逃れるため	11.294	19.05	<.0001	0.231	1.31617
11. その他	-0.417	-0.55	0.5816	-0.006	1.03038

N=6452 F値:192.3 <0.0001 調整済R二乗:0.2782

表 5.5.2 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.916	203.80	<.0001		
性(男:1,女:0)	0.208	3.57	0.0589	0.057	1.231
学年	-0.243	13.26	0.0003	-0.108	0.784
1. 友だちや知り合いとコミュニケーション	0.060	0.18	0.6727	0.014	1.062
2. 新しく友だちを作るため	0.543	17.33	<.0001	0.102	1.722
3. 学校・部活動などの事務的な連絡のため	-0.751	39.67	<.0001	-0.192	0.472
4. 周囲の人も使っているため	0.272	5.46	0.0194	0.072	1.313
5. 自分の近況や気持ちを知ってもらうため	0.384	7.67	0.0056	0.068	1.468
6. 情報収集のため	-0.174	2.04	0.1531	-0.048	0.84
7. 写真・動画などを気軽に投稿・シェア	0.540	20.21	<.0001	0.137	1.715
8. ひまつぶしのため	0.171	1.67	0.1956	0.046	1.186
9. ストレス解消のため	0.938	52.81	<.0001	0.190	2.554
10. 現実から逃れるため	1.595	153.88	<.0001	0.269	4.929
11. その他	0.218	1.09	0.2957	0.026	1.243

N=6452 Wald χ^2 二乗値:632.9 <0.0001

5.6 「保護者との約束内容」と依存

表 5.6.1-5.6.2 は「スマートフォン、ガラケーの利用について、保護者とどのような約束をしているか」（「時間帯制限」等）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.6.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.6.2）を示したものである。この質問は複数回答であるため、該当（○がつけられた場合）を 1、非該当を 0 として計算した。

なお、この分析では、依存度と負の関係をもつ項目が、依存でない傾向が強い、すなわち

依存に対して抑止的に働くことになる。表 5.6.1 に示される通り、依存度に最も大きな負の関連を持つのは「自室・寝室での利用不可」であり、次いで「利用時間上限設定」である。すなわち、「保護者と自室や寝室で利用しない」という約束をしていたり、利用時間に上限を設定していたりいる場合、依存になりにくい。「成績が下がったら利用を制限する」という約束が依存と正の関係をもつのが興味深い。つまり、その種の約束は依存回避にあまり効果的でないことになる。

表 5.6.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「自室・寝室での利用不可」「食事中的利用不可」という約束であり、すなわちその種の約束は依存回避に効果的であることが示唆されている。「成績が下がったら利用を制限する」という約束は、依存傾向者の当否と正の相関が示されており、依存抑止には役立たないことを示唆している。

表 5.6.1 「保護者との約束内容」と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	44.342	74.98	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-2.183	-6.28	<.0001	-0.072	1.02381
学年	-0.010	-0.05	0.9621	-0.001	1.05684
時間帯制限	-0.366	-0.79	0.4274	-0.010	1.21007
利用時間上限設定	-2.672	-4.20	<.0001	-0.050	1.12316
自室・寝室での利用不可	-2.887	-5.65	<.0001	-0.069	1.16879
食事中的利用不可	0.515	1.38	0.1687	0.017	1.14031
利用料金の上限定	0.837	1.75	0.0794	0.020	1.04181
成績低下で利用不可	4.555	9.24	<.0001	0.109	1.09596
その他	-1.854	-2.65	0.008	-0.030	1.00953

N=7668 F値:20.88 <0.0001 調整済R二乗:0.0228

表 5.6.2 「保護者との約束内容」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.279	201.94	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.186	3.51	0.0609	-0.051	0.83
学年	-0.162	6.74	0.0094	-0.072	0.851
時間帯制限	-0.019	0.02	0.8845	-0.004	0.981
利用時間上限設定	-0.295	2.23	0.1356	-0.047	0.744
自室・寝室での利用不可	-0.364	5.18	0.0229	-0.073	0.695
食事中的利用不可	-0.217	4.25	0.0392	-0.059	0.805
利用料金の上限定	0.145	1.24	0.2647	0.029	1.156
成績低下で利用不可	0.448	12.38	0.0004	0.090	1.566
その他	0.173	0.88	0.3479	0.024	1.188

N=7668 Wald χ^2 二乗値:34.8 <0.0001

5.7 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存

問 19 ではフィルタリングサービスを利用しているか否かを尋ね、さらに問 19①で、使っているフィルタリングサービスの内容（機能）に分けて、利用している様相を質問している。

表 5.7.1-5.7.2 は「フィルタリングサービスの内容」を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.6.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.7.2）を示したものである。ここでは、内容（機能）ごとに、「使っている」場合を1、「使っていない」場合を0として分析した。負の相関は、「そのフィルタリングサービスを使っている場合に依存傾向が小さい」ことを示す。

表 5.7.1 に示される通り、「**アプリの起動を制限する機能**」を使っている場合、**依存度が低く**、次いで「WiFi 接続の閲覧を制限する機能」を使っている場合、依存度が低い。「サイト・アプリの閲覧制限を個別に設定できる機能」「利用時間を制限する機能」は正の相関、すなわち、それを使っている人ほど依存度が高いという結果が示されている。この場合、そうした機能の利用が依存傾向を増幅させるというより、依存度の高い学生に、そうした機能の使用が強制される、と考えた方が適切だろう。

表 5.7.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「アプリ起動制限機能」である。

表 5.7.1 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	45.133	51.02	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-0.954	-1.72	0.0848	-0.031	1.01029
学年	-0.227	-0.66	0.5091	-0.012	1.00428
アプリ起動制限機能	-2.563	-4.29	<.0001	-0.082	1.14077
Wi-Fi接続時間閲覧制限機能	-1.034	-1.79	0.0728	-0.034	1.09559
利用時間制限機能	1.545	1.74	0.0819	0.033	1.10446
サイト・アプリ個別制限機能	1.184	2.13	0.0335	0.039	1.03283
N=3073		F値:5.74 <0.0001		調整済R二乗:0.0092	

表 5.7.2 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.554	114.40	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.088	0.34	0.5618		0.916
学年	-0.112	1.41	0.2355		0.894
アプリ起動制限機能	-0.125	0.57	0.4521		0.882
Wi-Fi接続時間閲覧制限機能	0.003	0.00	0.9851		1.003
利用時間制限機能	0.257	1.29	0.2555	0.046	1.293
サイト・アプリ個別制限機能	0.204	1.76	0.1842	0.056	1.227

N=3073 Wald χ^2 乗値: 5.3 < 0.0001

5.8 生活時間と依存

表 5.8.1 - 5.8.2 は主な生活行動時間の平日 1 日の平均利用時間(当該の行動をとらない人は 0 として計算)を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.8.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.8.2) を示したものである。

表 5.8.1 に示される通り、睡眠時間、自宅で勉強する時間、家族と顔を合わせて話をする時間が長い学生ほど依存度が低い。一方、家で過ごす時間が長い学生ほど依存度が高い。

このことは、表 5.8.2 でも同様に該当している。

表 5.8.1 生活時間と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	65.619	49.19	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-2.418	-7.04	<.0001	-0.080	1.05234
学年	-0.293	-1.32	0.1856	-0.015	1.11468
1.家で過ごす時間	0.007	7.24	<.0001	0.084	1.10461
2.通学にかかる時間	0.007	0.46	0.6429	0.005	1.01112
3.部活動の時間	0.002	0.93	0.3519	0.011	1.0706
4.学習塾や習い事の時間	-0.001	-0.45	0.6496	-0.005	1.06611
5.自宅で勉強する時間	-0.031	-11.23	<.0001	-0.128	1.06968
6.本を読む時間	-0.013	-3.41	0.0007	-0.038	1.02394
7.テレビを見る時間	0.005	2.27	0.0233	0.026	1.09844
8.睡眠時間	-0.048	-20.76	<.0001	-0.237	1.06821
9.家族と顔を合わせて話をする時間	-0.014	-9.38	<.0001	-0.112	1.16666

N=7432 F値: 73.0 < 0.0001 調整済R二乗: 0.0092

表 5.8.2 生活時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr >	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗	ChiSq		
切片	2.177	31.48	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.218	3.99	0.0456	-0.060	0.804
学年	-0.336	22.00	<.0001	-0.148	0.715
1.家で過ごす時間	0.001	17.36	<.0001	0.118	1.001
2.通学にかかる時間	0.000	0.00	0.9518	-0.002	1
3.部活動の時間	0.000	0.16	0.6855	-0.013	1
4.学習塾や習い事の時間	0.000	0.01	0.9035	-0.004	1
5.自宅で勉強する時間	-0.006	24.10	<.0001	-0.094	0.994
6.本を読む時間	-0.002	2.07	0.1503	-0.046	0.998
7.テレビを見る時間	0.000	0.03	0.8693	0.005	1
8.睡眠時間	-0.010	202.29	<.0001	-0.409	0.99
9.家族と顔を合わせて話をする時間	-0.003	18.32	<.0001	-0.175	0.997

N=7432 Wald χ^2 二乗値: 288.2 <0.0001

5.9 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存

表 5.9.1-5.9.2 は友だち・保護者・学校生活への満足度を説明変数とし（「満足」を 4、「不満」を 1 として集計）、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.9.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.9.2）を示したものである。

表 5.9.1 に示される通り、依存度に最も大きな関連を持つのは保護者への満足度であり、保護者に満足している学生ほど依存が低い。同様に学校生活に満足している学生ほど依存度が低い。

表 5.9.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当（依存傾向者にならないこと）に最も大きく関わるのは保護者への満足度であり、満足度が高いほど依存傾向者になる率が低い。

表 5.9.1 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	60.136	64.33	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-2.664	-8.45	<.0001	-0.086	1.00884
学年	0.728	3.73	0.0002	0.038	1.0054
友だち	0.080	0.28	0.7798	0.004	1.72091
保護者	-3.270	-15.83	<.0001	-0.179	1.25199
学校生活	-2.104	-8.86	<.0001	-0.119	1.76554

N=9122 F値: 137.4 <0.0001 調整済R二乗: 0.070

表 5.9.2 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr >	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗	ChiSq		
切片	-0.107	0.23	0.6328		
性(男:1,女:0)	-0.269	8.29	0.004	-0.074	0.764
学年	-0.075	1.67	0.1969	-0.033	0.928
友だち	0.079	1.36	0.244	0.032	1.082
保護者	-0.479	92.52	<.0001	-0.225	0.62
学校生活	-0.390	44.87	<.0001	-0.189	0.677

N=9122 Wald χ^2 乗値: 252.0 <0.0001

5.10 保護者に対する気持ちと依存

表 5.10.1-5.10.2 は保護者に対する気持ち (問 25) を説明変数とし (「あてはまる」を 4、「あてはまらない」を 1 として集計)、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果 (表 5.10.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果 (表 5.10.2) を示したものである。

表 5.10.1 に示される通り、「あなたに干渉しすぎる」「あなたに関心がない」という気持ちをいっている学生において依存度が高く、逆に「相談しやすい」「あなたの気持ちをよく理解してくれる」「あなたの実力を評価し、認めてくれる」という気持ちをいっている学生において依存度が低い。

表 5.10.2 の結果も同様であるが、依存傾向者になりにくいことに関連する項目として「あなたの気持ちをよく理解してくれる」が最も関連が強く、ついで「相談しやすい」が続いている。

表 5.10.1 保護者に対する気持ちと依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	44.849	42.38	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-3.641	-11.06	<.0001	-0.117	1.06886
学年	0.247	1.24	0.2143	0.013	1.01608
1. あなたの気持ちをよく理解してくれる	-0.951	-3.16	0.0016	-0.054	2.73518
2. あなたの実力を評価し、認めてくれる	-0.885	-3.32	0.0009	-0.053	2.4398
3. あなたを信頼している	-0.430	-1.49	0.1364	-0.025	2.64247
4. 落ち込んでいると、元気づけてくれる	0.928	3.00	0.0027	0.058	3.47832
5. どんなに困ったことでも助けてくれる	0.557	1.78	0.0751	0.033	3.28414
6. 相談しやすい	-1.012	-4.20	<.0001	-0.070	2.5997
7. 一緒にいて楽しい	-0.774	-2.87	0.0041	-0.047	2.49404
8. しつげに厳しい	-0.525	-3.00	0.0027	-0.034	1.21029
9. あなたに干渉しすぎる	1.726	8.80	<.0001	0.102	1.25921
10. あなたに関心がない	1.390	5.48	<.0001	0.076	1.80858
11. あなたを嫌んでいる	1.109	3.80	0.0001	0.055	1.95081

N=8831 F値: 50.4 <0.0001 調整済R二乗: 0.0678

表 5.10.2 保護者に対する気持ちと依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-2.390	68.73	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.392	16.05	<.0001		-0.108 0.675
学年	-0.164	7.61	0.0058		-0.073 0.849
1. あなたの気持ちをよく理解してくれる	-0.263	9.45	0.0021		-0.127 0.769
2. あなたの実力を評価し、認めてくれる	-0.110	1.94	0.1641		-0.056 0.896
3. あなたを信頼している	-0.153	3.58	0.0585		-0.076 0.858
4. 落ち込んでいると、元気づけてくれる	0.166	3.53	0.0604		0.088 1.18
5. どんなに困ったことでも助けてくれる	0.145	2.80	0.0943		0.074 1.156
6. 相談しやすい	-0.172	5.86	0.0155		-0.101 0.842
7. 一緒にいて楽しい	-0.069	0.84	0.3592		-0.036 0.933
8. しつげに厳しい	-0.037	0.48	0.4896		-0.020 0.964
9. あなたに干渉しすぎる	0.364	42.15	<.0001		0.183 1.439
10. あなたに関心がない	0.165	5.75	0.0165		0.077 1.179
11. あなたを嫌っている	0.140	3.56	0.059		0.059 1.151

N=8831 Wald χ 二乗値: 234.0 <0.0001

5.11 心理特性と依存

今回の調査ではネット依存と深く関わりのありそうな心理特性として「社交性(問 23(1)～(3))」「抑うつ(問 23(4)～(6))」「孤独感(問 26(1)～(3))」「公的自意識(問 26(5)～(7)、(9))」とりあげている。それぞれ「あてはまる」を 4、「あてはまらない」を 1 としてリッカート評定加算法で尺度構成した。

表 5.11.1-5.11.2 はそれぞれの心理特性を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.11.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.11.2)を示したものである。

表 5.11.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連をもつのが「抑うつ性」であり(抑うつ性が高いほど依存度が高い)、「公的自意識」がそれについている。「社交性」は依存度とほとんど関係が見られない。**

表 5.11.2 でも同様の傾向が見られた。

表 5.11.1 心理特性と依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF
切片	19.074	16.70	<.0001	0.000	0
性(男:1,女:0)	-1.940	-6.33	<.0001		-0.062 1.01848
学年	0.485	2.57	0.0102		0.025 1.00649
社交性	-0.169	-0.74	0.4588		-0.008 1.25042
抑鬱性	7.115	26.87	<.0001		0.298 1.29059
孤独感	1.175	3.91	<.0001		0.046 1.41661
公的自意識	2.954	14.55	<.0001		0.152 1.14878

N=8813 F値: 275.9 <0.0001 調整済R二乗: 0.1577

表 5.11.2 心理特性と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	推定値	Wald	Pr >	標準化した推定値	オッズ比
		カイ 2 乗	ChiSq		
切片	-6.019	280.49	<.0001		
性(男:1,女:0)	-0.120	1.54	0.2148	-0.033	0.887
学年	-0.105	3.10	0.0784	-0.047	0.9
社交性	-0.140	4.39	0.036	-0.057	0.87
抑鬱性	1.150	203.00	<.0001	0.413	3.157
孤独感	0.267	8.86	0.0029	0.089	1.306
公的自意識	0.277	18.28	<.0001	0.122	1.319

N=8813 Wald χ^2 乗値: 395.6 <0.0001

5.12 範疇横断的な要因による依存の分析

依存に関する多変量解析の最後に範疇横断的に説明変数を取りあげ、依存に影響力のある要因を分析した。

とりあげた変数は、(1)単相関分析において大きな関わりを示し、(2)5.1-5.11の各範疇内で、依存と大きな関わりがあったもの、かつ(3)変数の構成概念的に多重共線性の危険性が低いものを選択した。結果的に投入した説明変数は、統制変数として「性」「学年」のほか、ネットサービスの利用項目から「モバイルで動画を見る」「モバイルでSNSを見る」、ネットを利用する目的から「ストレス解消のため」「現実から逃れるため」、生活・生活満足度から「保護者との満足度」「学校生活満足度」、心理特性から「抑うつ傾向」「公的自意識」の計10変数である。なお、**異範疇の変数を同時に回帰分析に投入することには様々な議論があり、今回の結果はあくまで参考情報**であることに注意されたい。

表 5.12.1-5.12.2 は取り上げた変数を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.12.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.12.2）を示したものである。

表 5.12.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連をもつのが心理特性の「抑うつ性」**であり、つづいて利用目的の「現実から逃れるため」が高い標準化回帰計数値を示した。

表 5.12.2 においても同様な傾向が見られた。

表 5.12.1 範疇横断的な要因による依存度の重回帰分析

変数	回帰係数	t 値	Pr > t	標準化回帰係数	VIF	単相関係数
切片	31.918	23.35	<.0001	0.000	0	
性(男:1,女:0)	-0.512	-1.48	0.1399	-0.017	1.06079	0.083
学年	-0.938	-4.46	<.0001	-0.051	1.01548	0.030
モバイルで動画を見る	0.026	11.03	<.0001	0.131	1.08115	0.294
モバイルでSNSを見る	0.018	11.80	<.0001	0.142	1.10938	0.297
ストレス解消のため	6.331	12.19	<.0001	0.159	1.30677	0.361
現実から逃れるため	9.675	15.66	<.0001	0.205	1.311	0.381
保護者との満足度	-1.546	-7.04	<.0001	-0.090	1.247	-0.219
学校生活満足度	-0.019	-0.08	0.9342	-0.001	1.34947	-0.189
抑うつ傾向	4.915	16.43	<.0001	0.218	1.35248	0.354
公的自意識	2.845	12.97	<.0001	0.154	1.07757	0.234
N=4995 F値: 269.1 <.0001 調整済R二乗: 0.3493						

表 5.11.2 範疇横断的な要因による依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

変数	回帰係数	Wald	Pr > ChiSq	標準化回帰係数	オッズ比
		カイ 2 乗			
切片	-5.306	121.27	<.0001		
性(男:1,女:0)	0.250	3.54	0.06	0.068	1.284
学年	-0.236	9.15	0.0025	-0.104	0.79
モバイルで動画を見る	0.003	28.81	<.0001	0.138	1.003
モバイルでSNSを見る	0.002	25.67	<.0001	0.130	1.002
ストレス解消のため	0.913	40.85	<.0001	0.185	2.491
現実から逃れるため	1.433	92.10	<.0001	0.245	4.19
保護者との満足度	-0.220	10.78	0.001	-0.103	0.803
学校生活満足度	0.033	0.21	0.6446	0.016	1.034
抑うつ傾向	0.785	56.60	<.0001	0.281	2.192
公的自意識	0.330	16.22	<.0001	0.144	1.391
N=4995 Wald χ^2 乗値: 514.8 <.0001					

6. ヤング 20 項目尺度とネット依存関連質問

6.1 本調査におけるネット依存関連質問

本調査ではヤングの 20 項目尺度を尋ねるとともに、ソーシャルメディアなどを通じたネット上でのコミュニケーションに伴う依存を表す項目（Q14 の項目(9)～(12)）やネット依存に伴う実害を表す項目（Q15 の項目(1)～(7)）、さらにネット依存に関連するその他の質問項目（Q11、Q15 の項目(8)～(12)）を独自に加えた。

依存/非依存の比較は本稿に先立って公開された総務省情報通信政策研究所の報告書⁸⁾に掲載されており、いずれも依存傾向者の該当割合（ないしは肯定的回答の割合）が非依存傾向者よりも高いという当然と言えば当然の結果となっているため、本稿では紹介を省き性別・学年別の比較のみを掲載する。なお 5 件法の質問項目について選択肢すべての割合を掲載するのは煩雑に過ぎるため、「いつもある」「よくある」「ときどきある」の肯定的選択肢 3 つを合わせた割合を示すこととする。分析対象者は依存傾向を判定できる 9,475 人（サンプルの絞り方については「1.2 依存傾向者の分布」を参照）に限定した⁹⁾。

6.2 ヤング 20 項目への回答状況

ヤング 20 項目は Q4 の項目(1)～(12)と Q14 の項目(1)～(8)で尋ねた。分析対象全体での集計結果（表 6.2.1）を見ると、「気がつく、思っていたより長い時間ネットをしていることがある」の 77.6%を始め、該当割合 30%を超える項目は 15 項目に上った。複数項目に重複して該当する人（その最たるものが依存傾向者）こそ少ないものの、一つ一つの項目だけをとればこれらのことが起こるのはさほど珍しいことではないことが分かる。

その一方で、該当割合が比較的低い項目としては「(9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある」(18.4%)、「(15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある」(16.5%)、「(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある」(14.6%)、「(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある」(18.3%)、「(20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする」(9.8%) といったものがあり、これらに該当する場合には、ネット利用に関して他の人よりも深刻な問題が生じている可能性が考えられる。

性別による比較では 13 項目で男女による有意な偏りが見られたが、その多くで女子の

⁸⁾ 総務省情報通信政策研究所(2016)「中学生のインターネットの利用状況と依存傾向に関する調査」
<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/seika/houkoku-since2011.html>

⁹⁾ 本章で扱った質問について、総務省報告書では調査の有効回答者全体 (n=10,596) を対象に集計している。本章の分析対象者とはズレがあるため、集計結果の数値が異なることをお断りしておく。

該当割合の方が高い結果が見られた。男子の方が高かったのは「(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある」や「(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある」のような、先に紹介した該当割合の比較的低い項目であった。

学年別の比較でも 11 項目に有意な偏りが見られ、項目(1)(4)(8)(9)(14)の 5 項目では上の学年ほど該当割合が高い傾向が見られた。

表 6.2.1 ヤング 20 項目への回答状況 属性別比較 (単位: %)

	全体 (n=9,475)	男子 (n=4,564)	女子 (n=4,638)	χ^2 検定	1年生 (n=3,118)	2年生 (n=3,282)	3年生 (n=3,075)	χ^2 検定
(1) 気がつくと、思っていたより長い時間ネットをしていることがある	77.6	72.4	82.9	***	73.7	79.1	80.1	***
(2) ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある	49.1	45.2	52.7	***	48.2	51.0	48.1	*
(3) 家族や友達と過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある	31.6	31.2	31.9	ns	29.9	32.7	32.2	*
(4) ネットで新しく知り合いを作ることがある	31.1	25.6	36.3	***	26.9	30.1	36.4	***
(5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある	41.9	39.0	44.9	***	40.2	43.1	42.4	ns
(6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている	31.1	30.7	31.0	ns	34.8	33.2	25.0	***
(7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることもある	38.7	37.7	39.2	ns	37.0	39.9	39.1	*
(8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア (LINE、Twitter など) やメールをチェックすることがある	45.7	39.4	51.3	***	43.6	46.0	47.5	**
(9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある	18.4	18.7	17.8	ns	16.7	17.9	20.5	***
(10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある	34.7	31.6	37.5	***	33.4	36.3	34.3	ns
(11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある	45.3	42.0	48.8	***	42.7	47.0	46.1	**
(12) ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある	35.7	34.8	36.2	ns	34.3	36.0	36.8	ns
(13) ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある	31.0	29.9	32.0	*	31.4	31.6	30.0	ns
(14) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている	45.5	42.5	48.0	***	37.2	46.7	52.8	***
(15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある	16.5	17.1	15.6	ns	16.4	16.7	16.5	ns
(16) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある	43.1	36.7	49.2	***	42.5	43.9	42.8	ns
(17) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある	38.1	34.6	41.3	***	36.1	39.4	38.8	*
(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある	14.6	15.9	13.0	***	14.4	14.4	15.0	ns
(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある	18.3	20.1	16.4	***	17.3	18.5	19.2	ns
(20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする	9.8	9.8	9.5	ns	10.2	9.1	10.2	ns

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す: *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目について「いつもある」「よくある」「ときどきある」の回答を合わせた割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者 (n=9,475)。男女の N 数の合計と全体の N 数が合致しないのは性別不明の回答者が存在するため。

6.3 コミュニケーション関連項目への回答状況

Q14 の項目(9)~(12)で尋ねたコミュニケーション関連項目について集計を行った (表 6.3.1)。ソーシャルメディア利用が活発化していく中、友人などとの携帯電話を介したメッセージのやり取りに歯止めがかからない「つながり依存」「きずな依存」が近年指摘されているところであり、これらの項目への該当割合は高いことが予想されたが、分析対象全体では「ネット上のメッセージにはすぐに返信する」以外の 3 項目は該当割合 30%未満で

あった。本調査のこのような結果だけを見る限りでは、「身近に携帯電話が無かったりメッセージのやり取りが続かないと不安あるいは不満」という心理は、中学生の間ではさほど蔓延しているわけではないことがうかがわれた。

性別による比較では3項目で有意な偏りが見られ、すべて女子の該当割合の方が高かった。学年別の比較でも3項目で有意な偏りが見られたが、学年の高低に従って該当割合が推移している項目は「ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする」の1項目のみであった。

表 6.3.1 コミュニケーション関連項目への回答状況 属性別比較（単位：％）

	全体	男子	女子	χ^2 検定
自分の身近にケータイ(スマートフォンやガラケー)が無いと落ち着かない	26.0 (n=9,444)	21.3 (n=4,553)	30.5 (n=4,620)	***
ネット上のメッセージにはすぐに返信する	46.5 (n=9,421)	43.6 (n=4,535)	49.6 (n=4,617)	***
ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする	12.2 (n=9,431)	12.6 (n=4,538)	12.2 (n=4,624)	ns
友だちからのメッセージが気がかりでネットを常に確認している	20.2 (n=9,436)	17.9 (n=4,539)	22.8 (n=4,627)	***
	1年生	2年生	3年生	χ^2 検定
自分の身近にケータイ(スマートフォンやガラケー)が無いと落ち着かない	24.7 (n=3,105)	24.0 (n=3,270)	29.5 (n=3,069)	***
ネット上のメッセージにはすぐに返信する	45.2 (n=3,094)	46.2 (n=3,265)	48.2 (n=3,062)	ns
ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする	11.2 (n=3,097)	11.4 (n=3,270)	14.0 (n=3,064)	***
友だちからのメッセージが気がかりでネットを常に確認している	19.6 (n=3,107)	19.0 (n=3,267)	22.2 (n=3,062)	**

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** $p < .001$, ** $p < .01$, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目について「いつもある」「よくある」「ときどきある」の回答を合わせた割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

6.4 ネット利用に伴う実害項目への回答状況

Q15のうち、「ネットのしすぎが原因で～したことがある」の形式で尋ねている7つの質問項目について集計を行った(表6.4.1)。学校への遅刻・欠席、心身の健康の阻害、社会的機会や対人関係の喪失など、これまで尋ねた心的傾向や生活習慣と異なり実際に起きれば一定の実害が生じる出来事の有無を扱っていることから、ヤング20項目やコミュニケーション関連項目に比べ該当割合が一段低い値となっている。分析対象全体では「試験に失敗したことがある」(9.9%)、「身体的な健康を損ねたことがある」(7.6%)、「精神的に不安定になったことがある」(6.1%)、「約束事をすっぼかしたことがある」(5.4%)の該当割合が比較的高かった。

性別による比較では4項目に有意な偏りが見られ、3項目で男子の該当割合の方が高かったが、「精神的に不安定になったことがある」では女子の方が高い結果となった。

学年別の比較では4項目に有意な偏りが見られた。過去の経験について尋ねているため上の学年ほど該当割合が高くなるのが自然に思われ、「何度か学校に遅刻したことがある」

「身体的な健康を損ねたことがある」では実際そのようになった。しかし「試験に失敗したことがある」「約束事をすっぽかしたことがある」では3年生よりも1・2年生の方が高く、当初の予想とは逆の結果となった。

表 6.4.1 ネット利用に伴う実害項目への回答状況 属性別比較（単位：％）

	全体	男子	女子	χ^2 検定
ネットのし過ぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある	3.4 (n=9,454)	4.5 (n=4,554)	2.1 (n=4,633)	***
ネットのし過ぎが原因で、何度か学校を休んだことがある	1.3 (n=9,454)	1.6 (n=4,555)	0.9 (n=4,633)	**
ネットのし過ぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある	7.6 (n=9,444)	7.3 (n=4,549)	7.8 (n=4,628)	ns
ネットのし過ぎが原因で、精神的に不安定になったことがある	6.1 (n=9,443)	4.1 (n=4,549)	8.0 (n=4,628)	***
ネットのし過ぎが原因で、試験に失敗したことがある	9.9 (n=9,437)	10.0 (n=4,547)	9.7 (n=4,624)	ns
ネットのし過ぎが原因で、約束事をすっぽかしたことがある	5.4 (n=9,446)	7.0 (n=4,550)	3.7 (n=4,630)	***
ネットのし過ぎが原因で、友だちを失ったことがある	1.8 (n=9,412)	1.8 (n=4,531)	1.7 (n=4,615)	ns
	1年生	2年生	3年生	χ^2 検定
ネットのし過ぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある	2.4 (n=3,108)	3.2 (n=3,277)	4.8 (n=3,069)	***
ネットのし過ぎが原因で、何度か学校を休んだことがある	1.0 (n=3,108)	1.2 (n=3,277)	1.5 (n=3,069)	ns
ネットのし過ぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある	6.9 (n=3,103)	7.5 (n=3,275)	8.6 (n=3,066)	*
ネットのし過ぎが原因で、精神的に不安定になったことがある	6.2 (n=3,105)	5.9 (n=3,273)	6.3 (n=3,065)	ns
ネットのし過ぎが原因で、試験に失敗したことがある	10.1 (n=3,105)	11.5 (n=3,271)	8.0 (n=3,061)	***
ネットのし過ぎが原因で、約束事をすっぽかしたことがある	6.7 (n=3,105)	5.4 (n=3,275)	4.2 (n=3,066)	***
ネットのし過ぎが原因で、友だちを失ったことがある	2.0 (n=3,094)	1.5 (n=3,261)	2.0 (n=3,057)	ns

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目（二択）への該当割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

6.5 ネット依存関連その他の質問の回答状況

Q15の項目(8)～(12)で尋ねたネット依存関連の質問項目を集計したところ（表 6.5.1）、分析対象全体では66.2%が「今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う」と答え、「暇さえあれば、ネットを利用している」人は49.7%に上った。「お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある」人も33.0%に及んでいる。中学生の意識面・行動面においてネットのある生活がごく当たり前のものとなっていることを表した結果と考えられる。

「自分はネット依存だと思う」と答えた人は分析対象全体の20.4%である。同じ分析対象の中で依存傾向者は5.7%であるから、ヤング基準が唯一絶対の基準ではないにしても、残り15%ほどの人は自身のことを過度に心配しているだけの可能性がある。他方で、興味深いことに依存傾向者の約3割はこの質問に「いいえ」と答えており（図 6.5.1）、自分が

ネット依存に陥っているかもしれないことへの自覚が無い。

性別による比較では「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」を除く4項目に有意な偏りが見られ、「お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある」以外の3項目では女子の該当割合の方が高かった。

学年別でも「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」を除く4項目で有意な偏りが見られ、いずれも上の学年ほど該当割合が高い結果となった。

表 6.5.1 ネット依存関連その他の質問 属性別比較（単位：％）

	全体	男子	女子	χ^2 検定
お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある	33.0 (n=9,450)	42.3 (n=4,551)	23.6 (n=4,632)	***
暇さえあれば、ネットを利用している	49.7 (n=9,439)	45.4 (n=4,551)	53.8 (n=4,624)	***
ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている	7.3 (n=9,437)	7.0 (n=4,545)	7.5 (n=4,627)	ns
自分はネット依存だと思う	20.4 (n=9,416)	16.9 (n=4,539)	23.7 (n=4,613)	***
今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う	66.2 (n=9,415)	62.5 (n=4,535)	70.2 (n=4,616)	***
	1年生	2年生	3年生	χ^2 検定
お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある	30.8 (n=3,108)	34.0 (n=3,277)	34.3 (n=3,065)	**
暇さえあれば、ネットを利用している	46.6 (n=3,102)	50.3 (n=3,273)	52.2 (n=3,064)	***
ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている	7.0 (n=3,098)	7.8 (n=3,274)	7.2 (n=3,065)	ns
自分はネット依存だと思う	18.7 (n=3,094)	20.4 (n=3,266)	22.0 (n=3,056)	**
今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う	62.4 (n=3,094)	67.2 (n=3,263)	69.0 (n=3,058)	***

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目（二択）への該当割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

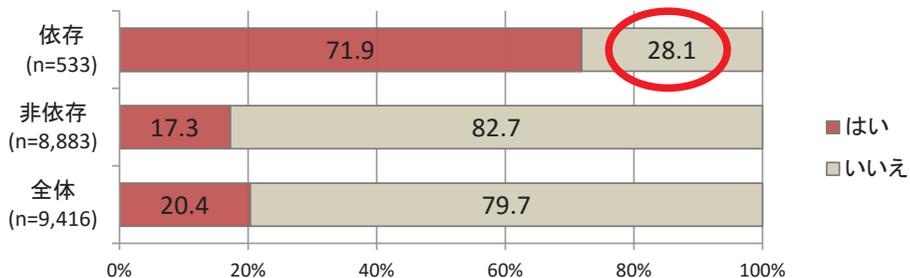


図 6.5.1 「自分はネット依存だと思う」への回答 依存/非依存比較（単位：％）

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

Q11ではネットがある生活とない生活のどちらが楽しさや充実を感じることができるか尋ねている。分析対象全体では86.1%がネットのある生活の方が楽しいもしくは充実して

いると回答していた（図 6.5.2）。図 6.5.3 の通り分析対象のネット利用総年数（モバイル機器だけではなく PC やタブレットも含めて、いずれかの機器によるネット利用年数）の平均は 4.9 年、最も早ければ（自己申告ではあるが）生まれた直後からネットを利用している人もいることから、もはや「ネットのない生活」自体が実感も想像もできないものになってしまっている可能性もある。

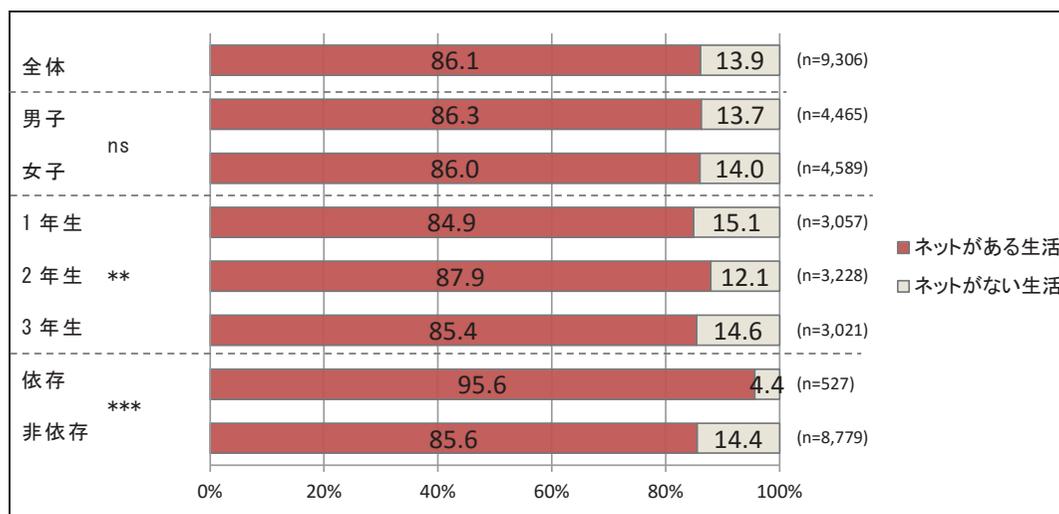


図 6.5.2 ネットのある生活とない生活どちらが楽しい/充実しているか
属性別比較（単位：％）

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** $p < .001$, ** $p < .01$, ns 有意な偏り無し
※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N 数は欠損値を除いた値。

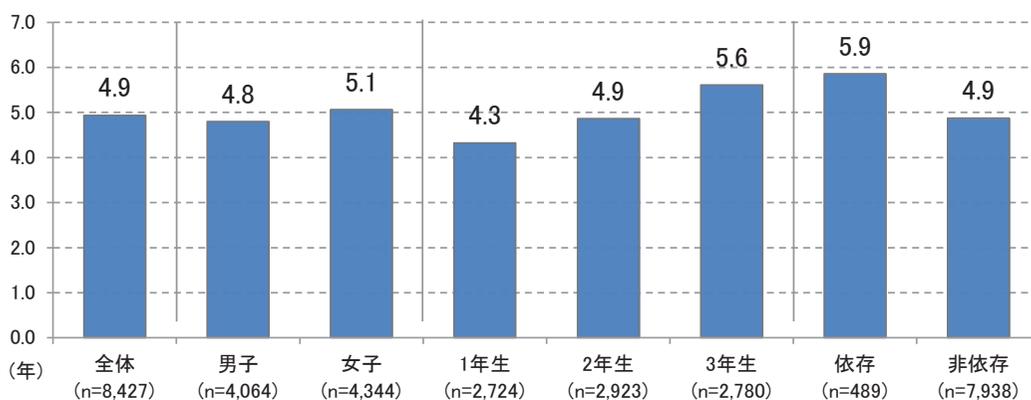


図 6.5.3 ネット利用総年数 属性別比較（単位：年）

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N 数は欠損値を除いた値。

【 中学生 のインターネットの 利用 に 関 する アンケート 調査 】

【記入にあたってのお願い】

- ・お答えは、あてはまる番号を○で囲むか、()内に具体的に記入してください。
- ・回答に迷う場合は、あなたの気持ち、考えにできるだけ近いものを選んでください。
- ・アンケートの記入が終わったら、記入ミスや記入もれがないか見直してから先生へ提出してください。

アンケート実施：総務省 情報通信政策研究所

問1. あなたは普段、家で次の(1)～(4)の機器を使っていますか。また、それらの機器を使ってネットを利用していますか。次の(1)～(4)のそれぞれについて、

- 「1. 機器を使っており、ネットも利用している」 「2. 機器を使っているが、ネットは利用していない」
 「3. この機器は家にはない」 のいずれか1つに○をつけてください。(○は1つずつ)
 また、「1」に○をつけたものについては、何歳から利用し始めたかも記入してください。

※ネットの利用とは、メール、ソーシャルメディア（LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)など)、動画サイト、ニュース、ブログ、ホームページ、ゲームなど、ネットにつながるあらゆるサービス・アプリの利用を指します。
 ※「2. 機器を使っているが、ネットは利用していない」は、ネットにつながらない状態で音楽を聴いたり、動画を見たり、ゲームをしたり、文章を書いたりする場合を指します。

	機器を使っており、ネットも利用している	ネットを利用し始めた年齢	機器を使っているが、ネットは利用していない	この機器は家にはない	NA
(1) パソコン(タブレット端末は除く)	73.3	→ (9.8)歳	13.6	8.7	4.4
(2) スマートフォン(iPhone、Xperia、AQUOSなど)	70.4	→ (12.5)歳	5.6	20.4	3.7
(3)ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)	46.5	→ (10.1)歳	11.7	35.2	6.6
(4) タブレット端末 (iPad、Xperia Tablet、Nexus 7など)	44.8	→ (12.3)歳	6.8	41.9	6.4

問2. あなたがネットを利用する平日1日の平均時間を、次の(1)～(4)のそれぞれの機器について、お答えください。利用していない場合は「0」を記入してください。

※ネットの利用にはメールも含まれます。

	平日1日の平均利用時間
(1) パソコン(タブレット端末を除く)で	()時間 (40.2)分くらい
(2) スマートフォン(iPhone、Xperia、AQUOSなど)で	()時間 (125.7)分くらい
(3)ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)で	()時間 (15.5)分くらい
(4) タブレット端末 (iPad、Xperia Tablet、Nexus 7など)で	()時間 (38.1)分くらい

問3. あなたがネットで、次の(1)～(7)を利用する平日1日の平均時間はどのくらいですか。

- a. パソコンやタブレット端末で利用する時間
 b. スマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く）で利用する時間
 それぞれお答えください。利用していない場合は「0」を記入してください。

※(2)～(4)の「ソーシャルメディア」とは、LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)などを指します。

	平日1日の平均利用時間	
	a. パソコンや タブレット端末で利用	b. スマートフォンや ガラケーで利用
(1) 動画サイトを見る (YouTube、ニコニコ動画など)	約 () 時間 (41.3) 分	約 () 時間 (42.4) 分
(2) ソーシャルメディアを見る	約 () 時間 (14.4) 分	約 () 時間 (55.5) 分
(3) ソーシャルメディアに書き込む	約 () 時間 (9.3) 分	約 () 時間 (32.5) 分
(4) ソーシャルメディアで通話をする	約 () 時間 (4.4) 分	約 () 時間 (12.5) 分
(5) ゲームをする	約 () 時間 (28.7) 分	約 () 時間 (46.5) 分
(6) ニュースサイトを見る	約 () 時間 (6.0) 分	約 () 時間 (8.3) 分
(7) ブログを見る	約 () 時間 (4.0) 分	約 () 時間 (6.6) 分

問4. あなたが現在ネットを利用する中で、次のようなことはどの程度ありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く）、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使う場合でも構いません。

	いつもある	よくある	ときどきある	めったにない	まったくない	NA
(1) 気がつくとき、思っていたより長い時間ネットをしていることがある	18.4	27.5	31.3	10.9	10.9	1.1
(2) ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある	8.1	12.9	27.9	24.2	25.4	1.5
(3) 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある	5.2	5.8	20.3	27.7	38.9	2.1
(4) ネットで新しく知り合いを作ることがある	6.6	8.0	16.5	14.8	52.2	2.0
(5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある	6.4	10.4	25.1	19.7	37.2	1.2
(6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている	4.4	7.4	19.7	24.6	42.3	1.6
(7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある	5.5	9.5	23.5	22.7	36.6	2.2
(8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア(LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)など)やメールをチェックすることがある	12.1	12.9	21.0	16.9	35.9	1.2
(9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある	3.1	3.9	11.7	24.5	55.6	1.2

	いつもある	よくある	ときどきある	めったにない	まったくない	NA
(10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある	5.9	9.0	20.0	25.3	38.5	1.3
(11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある	10.1	11.6	23.4	21.0	32.4	1.5
(12) ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある	8.3	7.9	19.8	23.7	39.0	1.4

問5. あなたはパソコン、タブレット端末、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)などの機器を問わず、ソーシャルメディアを利用していますか。(○は1つ)

※このアンケートで「ソーシャルメディア」とは、LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)などを指します。

74.7 利用している 17.7 利用していない 7.6 NA

【問6以降も回答してください】 【5ページ問11へお進みください】

問6. あなたは使用する機器を問わず、次の(1)～(5)のようなソーシャルメディアを利用していますか。それぞれについて、「1. 見るだけ」「2. 書込みもする」「3. 利用していない」のいずれか1つに○をつけてください。(○は1つずつ)

また、「見るだけ」「書込みもする」に○をつけたものについては、平日1日の平均利用時間も記入してください。

	見るだけ	書込みもする	平日1日の平均利用時間	利用していない	NA
(1) LINE(ライン)	16.7	61.8	→約()時間(87.9)分	10.1	11.5
(2) Twitter(ツイッター)	16.6	27.2	→約()時間(69.7)分	44.6	11.6
(3) Facebook(フェイスブック)	8.1	2.6	→約()時間(27.0)分	78.1	11.2
(4) mixi(ミクシィ)	2.4	0.8	→約()時間(38.4)分	85.3	11.6
(5) (1)～(4)以外のソーシャルメディア	6.6	11.2	→約()時間(62.2)分	68.2	14.1

問7. あなたがソーシャルメディアでよくやり取りする相手の人数はどのくらいですか。次の(1)～(5)のそれぞれについて、お答えください。よくやり取りする相手がいない場合は「0」を記入してください。

	人数
(1) 家族	(2.1)人
(2) 同じ学校の友だち	(24.7)人
(3) 学校外の活動(学習塾、クラブ活動、趣味の活動など)を通じて知り合った友だち	(9.6)人
(4) ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち	(2.0)人
(5) ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち	(18.6)人

問8. あなたがソーシャルメディアを利用する理由・目的は何ですか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

72.5(41.0) 友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため	47.7(8.2) 情報収集のため
12.6(0.7) 新しく友だちを作るため	28.8(2.2) 写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため
64.1(13.9) 学校・部活動などの事務的な連絡のため	57.5(15.2) ひまつぶしのため
33.6(2.8) 周囲の人も使っているため	15.3(1.5) ストレス解消のため
10.9(0.4) 自分の近況や気持ちを知ってもらうため	10.0(2.4) 現実から逃れるため
	4.6(2.7) その他(具体的に:)

(9.0) NA ※()は利用する一番の理由・目的の割合

問8-① 上記問8の質問で○をつけた番号のうち、あなたがソーシャルメディアを利用する一番の理由・目的を1つだけ選んで、次の四角の欄に番号を記入してください。

問9. ソーシャルメディアを利用する際に、悩んだり負担に感じたりすることはありますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、1~11にあてはまるものがなければ「12(1~11であてはまるものはない)」に○をつけてください。

16.6	ソーシャルメディア内の人間関係
4.0	頻繁にメッセージを投稿しなければいけないような気がする
14.8	友だちのメッセージをチェックすること
10.8	自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む
8.8	他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む
8.0	悪意のあるコメントや荒らしがくる
13.5	見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる
17.0	メッセージを読んだことがわかる機能(既読確認など)がある
13.4	メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけない
21.4	友だちとのやり取りをなかなか終わらせられない
14.0	自分の書いたメッセージに反応がない
36.4	1~11であてはまるものはない

問10. あなたはソーシャルメディアで友だちとのやり取りが続いている時、どのようにして終わらせますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

30.4	自分がやめようと思った時点で「やめる」と伝える
21.8	返事をせず、一方的に終わらせる
54.2	勉強・食事・風呂・睡眠などを口実にする
14.0	「家族に注意された」「家族に呼ばれた」など、家族を口実にする
25.9	「そろそろ出かける時間だから」など、他の予定があることを口実にする
31.0	何気ない言葉や絵文字・スタンプなどを使って、それとなくやめたいことをおわせる
14.8	「そろそろ眠たくない？」などと気づかうことで、相手から言い出すように仕向ける
8.5	相手が「やめよう」と言い出すまで、自分からは何も言い出さない
8.4	その他(具体的に:)

【 次の質問には全員お答えください 】

問 11. あなたは「ネットがある生活」と「ネットがない生活」のどちらの生活が、楽しいと感じたり、充実していると思いますか。(○は1つ)

84.3 ネットがある生活

13.3 ネットがない生活

2.3 NA

問 12. あなたはネットを使うようになってから、使い始める前と比べて友だちや保護者との関係に変化を感じますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、1～15にあてはまるものがなければ「16(1～15であてはまるものはない)」に○をつけてください。

※ネットの利用とは、メール、ソーシャルメディア (LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)など)、動画サイト、ニュース、ブログ、ホームページ、ゲームなど、ネットにつながるあらゆるサービス・アプリの利用を指します。

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使う場合でも構いません。

- 49.0 友だちとのつき合いが深くなった
- 42.9 色々な友だちと幅広くつき合うようになった
- 39.7 友だちの数が増えた
- 15.7 ネット上で見知らぬ人とやり取りするようになった
- 22.2 ネット上で同じ趣味の友だちと知り合うようになった
- 20.3 普段あまり接しないような人(違う地域の人、違う世代の人)と知り合うようになった
- 22.3 悩みを相談できる相手があった
- 1.7 友だちに縛られるようになった
- 13.9 友だちとのやり取りに気をつかうことが多くなった
- 6.2 友だちとのやり取りが気になって他のことに集中できなくなった
- 15.1 自分の気持ちについて、より積極的に表現できるようになった
- 22.9 保護者と頻繁に連絡を取り合うようになった
- 5.1 保護者と本音で話ができるようになった
- 3.4 保護者に縛られるようになった
- 19.9 保護者に注意されることが多くなった
- 21.7 1～15であてはまるものはない

問 13. あなたはネットを使うようになってから、使い始める前と比べて次のような変化を感じますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、1～10にあてはまるものがなければ「11(1～10であてはまるものはない)」に○をつけてください。

- 69.7 ネットでわからないことをすぐに調べられるので、時間を効率的に使えるようになった
- 25.2 ネットを通じて友だちに質問したり、質問サイトでわからないことを簡単に尋ねることができるので、勉強がはかどるようになった
- 37.3 ネット上の辞書サイトを使って、英語や国語の勉強がはかどるようになった
- 17.8 ネット上の教材(動画やアプリなど)を使って楽しく勉強できるようになった
- 51.1 いろいろな情報を収集できるので知識が増えた
- 48.4 今まで知らなかったことでも簡単に調べられるので世界が広がった
- 32.4 よくニュースに触れるようになった
- 13.0 情報を受け取るだけでなく、自分からも発信できるようになった
- 36.0 いろいろな情報を知ることができるので、友だちとの話題が増えた
- 42.1 生活が楽しくなった
- 7.4 1～10であてはまるものはない

問 14. あなたが現在ネットを利用する中で、次のようなことはどの程度ありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使う場合でも構いません。

	いつもある	よくある	ときどきある	めったにない	まったくない	NA
(1) ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある	3.6	6.5	20.7	26.8	40.3	2.1
(2) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている	9.2	12.2	23.8	18.5	33.9	2.4
(3) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある	2.8	3.5	10.4	21.9	59.2	2.3
(4) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある	7.6	11.5	23.6	18.7	36.4	2.3
(5) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある	6.8	9.8	21.0	21.7	38.0	2.7
(6) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある	2.5	3.2	8.9	21.5	61.3	2.7
(7) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある	3.4	3.4	11.3	20.6	58.7	2.7
(8) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする	2.0	1.6	6.1	18.1	70.0	2.2
(9) 自分の身近にケータイ(スマートフォンやガラケー)が無いと落ち着かない	6.0	5.7	14.2	20.1	51.5	2.5
(10) ネット上のメッセージにはすぐに返信する	7.4	12.7	25.9	15.4	35.9	2.8
(11) ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする	1.4	1.8	9.0	21.7	63.4	2.6
(12) 友だちからのメッセージが気になりネットで常に確認している	2.8	3.9	13.5	20.8	56.4	2.5

問 15. あなたがこれまでネットを利用してきた中で、次のような経験をしたり、感じたりしたことがありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、「はい」か「いいえ」でお答えください。(○は1つずつ)

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使った場合でも構いません。

	はい	いいえ	NA
(1) ネットのしすぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある	3.8	94.4	1.9
(2) ネットのしすぎが原因で、何度か学校を休んだことがある	1.4	96.7	1.9
(3) ネットのしすぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある	7.7	90.3	2.0
(4) ネットのしすぎが原因で、精神的に不安定になったことがある	6.0	91.9	2.0
(5) ネットのしすぎが原因で、試験に失敗したことがある	9.7	88.2	2.1
(6) ネットのしすぎが原因で、約束事をすっぽかしたことがある	5.7	92.3	2.0
(7) ネットのしすぎが原因で、友だちを失ったことがある	1.9	95.8	2.3
(8) お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ(音楽、アプリなど)を買ったことがある	33.0	65.1	1.9
(9) 暇さえあれば、ネットを利用している	49.3	48.6	2.1
(10) ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている	7.2	90.7	2.1
(11) 自分はネット依存だと思う	20.0	77.7	2.3
(12) 今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う	64.8	32.9	2.3

問 16. あなたはスマートフォンもしくはガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)を利用していますか。(○は1つ)

92.3 利用している	6.4 利用していない	1.3 NA
-------------	-------------	--------

【問17以降も回答してください】

【9ページ問21へお進みください】

問 17. あなたがスマートフォンやガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)を使い始めたことによって、使い始める前より大幅に減った時間はありますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、あてはまるものがなければ、「15(1～14であてはまるものはない)」に○をつけてください。

※スマートフォンやガラケーを使うことによる影響で、以前よりも時間が減ったものに○をつけてください。生活習慣や生活リズムが変わったことによって以前よりも時間が減ったものについては○をつけなくてください。

29.0 勉強の時間	22.0 本を読む時間
1.9 部活の時間	16.4 マンガや雑誌を読む時間
17.9 外で運動する時間	24.5 テレビを見る時間
3.8 食事の時間	13.9 家族と話をする時間
33.7 睡眠時間	5.4 友だちと会う時間
19.2 家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)の時間	1.0 その他(具体的に：)
10.8 外へ遊びに出かける時間	24.2 1～14であてはまるものはない
14.5 ネット以外の趣味に使う時間	

問 18. スマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHS を含む。スマートフォンは除く）の利用について、あなたは保護者とどのような約束をしていますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでもよい）

なお、約束をしていなければ「8（約束していることはない）」に○をつけてください。

- 19.0 「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している
- 8.1 「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている
- 13.8 自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない
- 53.4 食事中はスマートフォンやガラケーを使わない
- 14.4 利用料金の上限を決めている
- 14.0 成績が下がったら利用を制限する
- 5.8 その他（具体的に： _____）
- 23.6 約束していることはない

問 19. あなたが現在使っているスマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHS を含む。スマートフォンは除く）では、フィルタリングサービスを利用していますか。次の1～4について、あてはまるものに○をつけてください。（○は1つ）

※フィルタリングサービスとは、スマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHS を含む。スマートフォンは除く）を安心・安全に使えるように、青少年に有害なインターネット上の情報を制限することができる機能です

- 37.8 利用している
- 13.7 最初から利用していない
- 3.3 利用していたが解除した
- 30.7 利用しているかどうかわからない

14.5 NA

問 19-① 上記問 19 の質問で、「1（利用している）」と答えた方に質問します。具体的にどのようなサービスを利用していますか。次の(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。（○は1つずつ）

	つかっている	さいしょからつかっていない	つかっていたが解除した	つかっているかどうかわからない	
(1) アプリの起動を制限する機能	39.1	28.5	1.8	27.3	3.2
(2) Wi-Fi接続時の閲覧を制限する機能	44.3	22.4	1.2	28.8	3.2
(3) 利用時間を制限する機能	11.7	52.5	2.1	28.8	4.9
(4) サイト・アプリの閲覧制限を個別に設定(カスタマイズ)できる機能	52.9	13.8	1.1	30.3	1.9

問 20. あなたが利用しているスマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンを除く）を購入した際に、お店において、フィルタリングについて説明がありましたか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでもよい）

なお、フィルタリングについて説明がなかった場合⇒「5（フィルタリングについて説明はなかった）」、

覚えていない場合⇒「6（よく覚えていない）」、

保護者などが購入したものを使っているため、購入した時に自分がお店にいなかった場合

⇒「7（購入した時に自分はお店にいなかった）」に○をつけてください。

13. 3	フィルタリングの設定方法の説明があり、設定までしてくれた
4. 6	フィルタリングの設定方法の説明はあったが、設定はしてくれなかった
5. 6	フィルタリングの解除方法（IDやパスワードの管理を含む）の説明があった
4. 9	フィルタリングを解除した場合のリスク（有害情報を見ることができる可能性など）の説明があった
2. 6	フィルタリングについて説明はなかった
42. 6	よく覚えていない
17. 5	購入した時に自分はお店にいなかった

問 20-① 上記問 20 の質問で、1～4のいずれかに○をつけた方に質問します。説明の方法はどうでしたか。次の1～3について、あてはまるものに1つ○をつけてください。（○は1つ）

76. 5	資料を見せて口頭でも説明してくれた	17. 9	資料は見せずに口頭だけで説明してくれた
1. 2	資料を見せただけで口頭での説明はなかった	4. 4	NA

【 次の質問から先は全員お答えください 】

問 21. 普段、次の(1)～(9)の時間はどのくらいありますか。また、ネットを使い始める前は、どれくらいでしたか。平日1日の平均時間をそれぞれお答えください。※それぞれ行っていない場合は「0」を記入してください。

	平日1日の平均時間	
	普段（現在）	ネットを使い始める前
(1) 平日、睡眠や食事などを除いて家で過ごす時間	()時間(367.6)分くらい	()時間(353.4)分くらい
(2) 通学にかかる時間	()時間(17.7)分くらい	()時間(16.9)分くらい
(3) 部活動の時間	()時間(109.0)分くらい	()時間(101.5)分くらい
(4) 学習塾や習い事の時間	()時間(102.9)分くらい	()時間(94.7)分くらい
(5) 自宅で勉強する時間	()時間(59.8)分くらい	()時間(56.5)分くらい
(6) 本を読む時間	()時間(26.9)分くらい	()時間(26.4)分くらい
(7) テレビを見る時間	()時間(106.1)分くらい	()時間(114.2)分くらい
(8) 睡眠時間	()時間(438.1)分くらい	()時間(460.8)分くらい
(9) 家族と顔を合わせて話をする時間	()時間(116.9)分くらい	()時間(116.9)分くらい

問 22. あなたは今、友だち・保護者との関係や学校生活に満足していますか。次の(1)～(3)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

	満足	やや満足	やや不満	不満	NA
(1) 友だち	62.3	26.9	5.5	2.7	2.6
(2) 保護者	55.1	28.0	9.1	5.0	2.8
(3) 学校生活	49.3	32.4	9.3	6.2	2.8

問 23. あなたには次のことがあてはまりますか。次の(1)～(6)のそれぞれについて、あなたの考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) 人と一緒にいるのが好きだ	56.5	29.0	8.4	3.6	2.4
(2) 人とのつき合いは自分にとっていつも刺激的だ	34.7	37.4	16.9	8.0	3.0
(3) 人づき合いの機会があれば、よるこんで参加する	37.0	33.1	19.9	7.1	2.9
(4) 今の生活は充実している	48.4	34.3	10.1	4.1	3.1
(5) 気分が沈んで憂うつになることがよくある	15.1	26.0	30.1	25.7	3.2
(6) 夜よく眠れない	9.3	15.8	27.0	45.2	2.8

問 24. あなたは現在、友だちとの関係についてどのように考えていますか。次の(1)～(9)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) 友だちの数は多い方だ	29.2	42.4	18.6	6.9	2.9
(2) 友だちでもずっと一緒にいたら疲れる	14.4	25.0	31.3	26.6	2.8
(3) 友だちによく悩みごとを相談する	18.9	25.9	28.6	23.3	3.3
(4) 男女にかかわらず友だちになれる	32.3	30.8	23.1	10.6	3.1
(5) 友だちとわかり合おうとして、少しくらい傷ついても構わない	18.1	32.9	31.3	14.6	3.0
(6) どんな友だちとも仲良しでいたい	33.7	30.0	21.5	11.9	3.0
(7) 友だちと一緒にいると楽しい	62.1	27.5	4.8	2.3	3.2
(8) どんな時でも相手の機嫌を損ねたくない	26.8	35.9	23.9	10.3	3.0
(9) できるだけ敵は作りたくない	46.0	30.2	12.5	8.5	2.9

問 25. あなたは保護者に対してどのように感じていますか。次の(1)～(11)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる	31.3	42.3	16.5	7.0	3.0
(2) 日ごろからあなたの実力を評価し、認めてくれる	26.2	38.5	22.5	9.8	3.0
(3) あなたを信頼している	36.1	38.0	15.7	7.0	3.2
(4) あなたが落ち込んでいると、元気づけてくれる	34.4	34.0	19.3	9.3	3.0
(5) どんなに困ったことでも助けてくれる	35.9	35.3	18.1	7.5	3.1
(6) 相談しやすい	30.6	27.5	22.8	16.0	3.1
(7) 一緒にいて楽しい	37.4	34.5	17.1	7.8	3.2
(8) しつめに厳しい	23.6	29.8	29.3	14.0	3.3
(9) あなたに干渉しすぎる	10.0	21.4	41.0	23.1	4.5
(10) あなたに関心がない	4.9	11.6	34.0	46.1	3.4
(11) あなたを嫌っている	3.6	6.6	27.4	58.8	3.5

問 26. あなたには次のことがあてはまりますか。次の(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) 私は周りの人たちとうまくいっている	30.7	51.3	10.6	4.0	3.4
(2) 私には頼りにできる人が誰もいない	5.8	10.1	28.9	51.8	3.4
(3) 私は周りの人たちと興味や考え方があわないと思うことがよくある	14.7	30.1	37.3	14.3	3.6
(4) 不満なことがあった場合に聞いてくれる人がいる	42.9	33.4	13.8	6.4	3.6
(5) 自分が他人にどう思われているのか気になる	29.8	33.5	20.9	12.3	3.5
(6) 自分についての噂に関心がある	19.8	29.3	28.9	18.4	3.5
(7) 人前で何かをするとき、自分の仕事や姿が気になる	22.5	33.8	25.9	14.2	3.6
(8) 友達などから色々和相談されることが多い	19.4	35.0	29.2	12.8	3.6
(9) 他人からの評価を考えながら行動する	16.6	32.5	30.5	16.9	3.6

F 1 あなたの年齢、学年、性別を教えてください。(性別：○はどちらか1つ)

【年齢】	満 () 歳	【学年】	() 年生	【性別】	48.6 男	47.7 女	3.7 NA
------	---------	------	--------	------	--------	--------	--------

12歳 3.5 13歳 30.8 14歳 32.0 15歳 27.5 16歳 0.5 NA 5.7 1年 33.5 2年 34.3 3年 32.2

【 以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました 】

